

元総社蒼海遺跡群(129)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(129)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019.3

前橋市教育委員会

口絵写真



2区 W - 3号溝セクション 南から

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎮をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（129）は古代上野国の中核地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、国府衰退後、中世のこの地に栄えた蒼海城の堀跡等が検出されました。蒼海城は、県内最古級の城下町を有する城と考えられており、その縄張りは近年の発掘調査に伴って、徐々にその姿を見せていますが、全貌は未だ確認されていません。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成31年3月

前橋市教育委員会

教育長 塩崎政江

例　　言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社菖海地区画整理事業に伴う元総社菖海遺跡群（129）埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名称	元総社菖海遺跡群（129）
調査場所	群馬県前橋市元総社町 2154-3（1区）、2171（2区）
遺跡コード	30 A 237
発掘・整理担当者	土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）
発掘調査期間	平成 30 年 10 月 2 日～平成 30 年 11 月 5 日
整理・報告書作成期間	平成 30 年 11 月 6 日～平成 31 年 3 月 5 日

3. 本書の原稿執筆は I を並木史一（前橋市教育委員会）、他を土井が担当した。

4. 本遺跡に関わる遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。

5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】 新井秀雄 飯塚重雄 岡村美弥子 栗田満 笹尾信治 清水源治 須田友造 中川文雄

【整理作業】 磯 洋子 合田幸子 下條真美代 半澤利江 武士久美子 李スルチョロン

6. 発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

7. 発掘調査から報告書作成に至るまで、下記の諸氏に有益な御指導・御協力を賜った。

記して感謝の意を表したい。

永井智教 佐野良平

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60・1/120・1/150・1/200 縮尺で表現し、掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位記号は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。

2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 3 ~ 1 / 6 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。

3. 遺構実測図および遺物実測図で使用しているトーンについては、隨時挿図中に注釈を付してある。

4. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。

T：竪穴状遺構 W：溝・堀 I：井戸 D：土坑 P：ピット SX：不明遺構

5. 遺構覆土および土器類の色調觀察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財團法人日本色彩研究所監修 2006）に拠った。

6. 本文中や挿表において、[] は残存値を、() は推定値をそれぞれ示す。

目 次

口絵写真
はじめに
例 言
凡 例
目 次

I 調査に至る経緯	1	2. 溝	11
II 地理的・歴史的環境	2	3. 井戸	12
1. 地理的環境	2	4. 土坑	12
2. 歴史的環境	3	5. 不明遺構	12
III 調査の方法と経過	7	6. ピット	13
1. 調査の方法	7	VI 2区の遺構と遺物	25
2. 調査の経過	7	1. 溝	25
IV 標準堆積土層	8	2. 井戸	26
V 1区の遺構と遺物	11	3. ピット	26
1. 竪穴状遺構	11	VII まとめ	33

写真図版
抄 錄
奥 付

挿 図 目 次

Fig. 1 調査区域図	1	Fig.13 1区遺構実測図（6）	19
Fig. 2 道路の位置	2	Fig.14 1区遺物実測図（1）	20
Fig. 3 周辺の道路	3	Fig.15 1区遺物実測図（2）	21
Fig. 4 元郷社跡遺跡群とグリッド設定図	5	Fig.16 1区遺物実測図（3）	22
Fig. 5 標準堆積土層	8	Fig.17 1区遺物実測図（4）	23
Fig. 6 元郷社跡遺跡群（129）1区遺構全体図	9	Fig.18 2区遺構実測図（1）	27
Fig. 7 元郷社跡遺跡群（129）2区遺構全体図	10	Fig.19 2区遺構実測図（2）	28
Fig. 8 1区遺構実測図（1）	14	Fig.20 2区遺構実測図（3）	29
Fig. 9 1区遺構実測図（2）	15	Fig.21 2区遺構実測図（4）	30
Fig.10 1区遺構実測図（3）	16	Fig.22 2区遺物実測図（1）	31
Fig.11 1区遺構実測図（4）	17	Fig.23 2区遺物実測図（2）	32
Fig.12 1区遺構実測図（5）	18	Fig.24 本調査地と周辺沿海域諸島想定図	34

挿 表 目 次

Tab. 1 周辺遺跡一覧表	6	Tab. 4 1区出土遺物観察表（2）	24
Tab. 2 1区ピット一覧表	13	Tab. 5 2区ピット一覧表	26
Tab. 3 1区出土遺物観察表（1）	23	Tab. 6 2区出土遺物観察表	32

写 真 図 版 目 次

P L . 1

1 区全景（上が南）
1 区全貌（西から）

P L . 2

1 区 T - 1 号竪穴状遺構・D - 3 号土坑全景（東から）
1 区 W - 1 号溝遺物出土状態（西から）
1 区 W - 1 号溝全景（東から）
1 区 W - 2 • 3 • 4 号溝全景（西から）
1 区 D - 2 号土坑全景（北から）
1 区 S X - 1 号不明遺構遺物出土状態（西から）
1 区 S X - 1 号不明遺構全景（北から）
1 区 S X - 2 号不明遺構全景（北西から）

P L . 3

2 区東半全景（上が南）
2 区西半全景（上が南）

P L . 4

2 区 W - 1 号溝遺物出土状態（北西から）
2 区 W - 1 号溝全景（西から）
2 区 W - 2 号溝全景（南から）
2 区 W - 3 号溝全景（東から）
2 区 W - 3 号溝全景（南東から）
2 区 I - 1 号井戸全景（南東から）
2 区 I - 2 号井戸上層断面上～中層（北から）
2 区 I - 3 号井戸全景（北から）

P L . 5

1 区出土遺物（1）

P L . 6

1 区出土遺物（2）

P L . 7

1 区出土遺物（3）

P L . 8

2 区出土遺物（1）

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴い実施され、20年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成30年4月4日付で前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で同年4月19日及び20日に試掘確認調査を実施した結果、蒼海城跡などが検出され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

平成30年6月4日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直管による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することになった。同年9月7日付で前橋市と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(129)」（遺跡コード：30A237）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「(129)」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

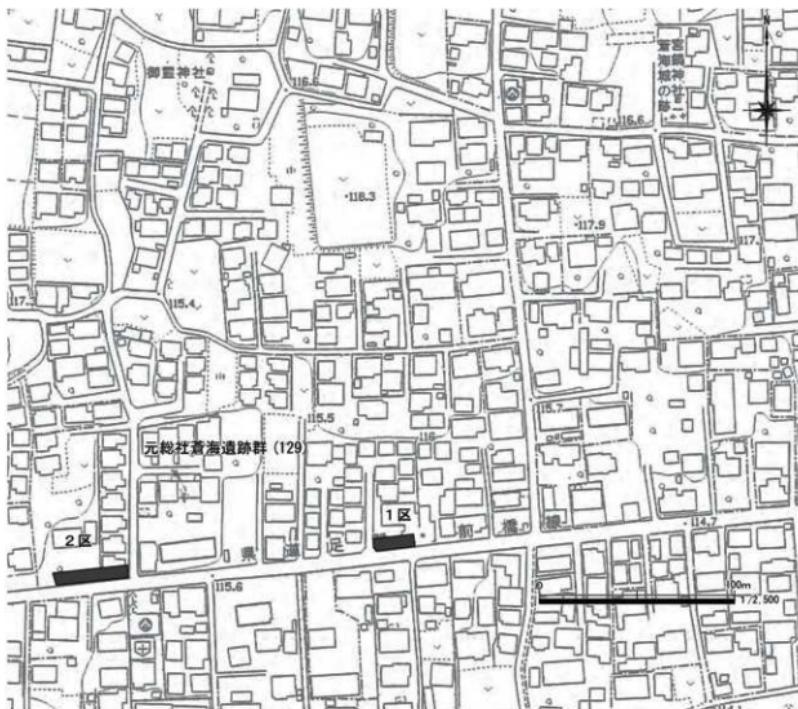


Fig. 1 調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現況図 51-2』）

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

元総社蒼海遺跡群が所在する前橋市は群馬県の中央からやや東寄りに位置し、北東に赤城山、北に子持山・小野子山、北西に榛名山、西に妙義山・浅間山を望むことができる。

調査地点は相馬ヶ原扇状地の末端に位置する。この相馬ヶ原扇状地は榛名山の陣場岩屑なだれ(約1.3万年前)による砂礫層が厚く堆積して形成される。同層下には浅間山の応桑岩屑なだれ(約2.3～2.4万年前)に起因する前橋泥流が赤城山・浅間山の両火山間から利根川を経て南東方向へ流出し、緩傾斜地の扇状地性台地を形成している。陣場岩屑なだれによる堆積物の上には前橋泥炭層(約1.1万年前)や総社砂層が厚く堆積する。

台地の東部には広瀬川低地帯との間に崖線が走り、中央には利根川が南流するが、現流路は中世以降のもので、旧流路は現在の広瀬川流域とされる。本遺跡地周辺には榛名山麓を水源とする染谷川・牛池川・八幡川などの中小河川が相馬ヶ原扇状地上に南東流し、台地面を刻んで細い微高地を形成する。なお、これらの河川は相馬ヶ原扇状地を抜け台地へと南東から南方向へと流路を変えているが、こうした地形の制約に大きく影響を受けた河川の流路変更是洪水を起こす温床と考えられ、同扇状地上に堆積する泥炭層、洪水層、総社砂層は度重なる洪水によりもたらされた堆積物で形成された可能性が指摘されている。

本遺跡は、前橋市域の西部、前橋市元総社町、元総社地内に所在する。南東0.3kmに総社神社があり、西0.7kmには関越自動車道が南北に走り、調査区南側沿いには県道足門・前橋線が東西に走る。周辺は近年の区画整理事業の開発に伴い、道路建設や住宅地化、商業施設の林立が著しいが、周囲には畠地を伴う閑静な住宅街が広がる。

主要引用・参考文献

早田 勉 1990 「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1』

日沖剛史 2015 「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』1号 地域考古学研究会

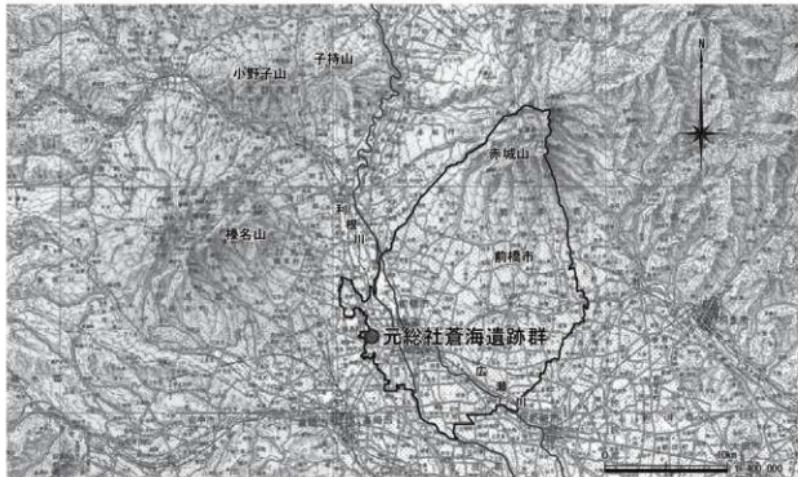


Fig. 2 遺跡の位置 (国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20万分の1図を改変)

2. 歴史的環境

本遺跡地周辺では県内でも著名な遺構が存在する。棟名山麓より流下する染谷川・牛池川・八幡川等の小河川は遺跡の占地に影響を与え、その流域である国分・元総社・総社・大渡地域は遺跡密集地となっている。

縄文時代では、八幡川、牛池川、染谷川流域の微高地上に立地する元総社菅海遺跡群（3）・（4）・（13）・（24）・（48）、（94街区）、元総社小見遺跡、小見VII遺跡などで、前期後葉・諸磯式期と中期後葉・加曾利E式期2時期の集落跡が確認される。また、八幡川、滝川などの小河川によって開析された低台地の南端にある産業道路東遺跡から中期後半・加曾利E式期住居跡が検出されている（上野国分僧寺・尼寺中間地域では加曾利E III式期の拠点的集落が確認されている）。近接する産業道路西遺跡では、後期前半の住居跡が確認されている。元総社菅海遺跡群（101）には後期・加曾利B式期主体の土坑群が検出されたが、集落が確認されていないため、単独墓域の可能性がある。晩期は、元総社菅海遺跡群（7）・（9）・（10）で前半の住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡は調査事例が少なく、後期・樽式期の住居跡が上野国分僧寺・尼寺中間地域等で散見される程度である。生産遺構としては、日高遺跡など平野部の後背湿地において浅間C軽石（As-C：3世紀後半～4世紀初頭）下の水田跡が検出されている。

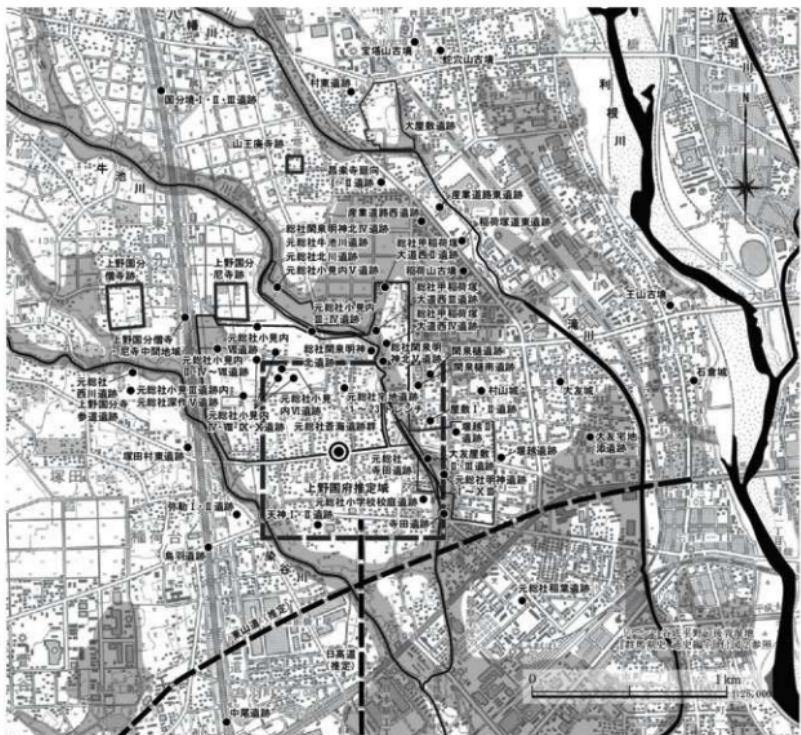


Fig. 3 周辺の遺跡（国土地理院発行『前橋』25,000 分の 1 図を改変）

古墳時代は、前期の集落が、元総社蒼海群（40）や小見V遺跡などの染谷川左岸と元総社蒼海遺跡群（38）などの牛池川右岸に形成される。中期になると三ツ寺地域において首長層の居館跡（三ツ寺I遺跡など）が牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開するが、総社地域では発見例に乏しい。後期になると遺跡数が増大し、国府が機能し始めるまで連綿と継続する様相が窺える。集落に伴う水田は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中し、周溝墓群は元総社蒼海遺跡群（56・61・62・100）などの牛池川左岸に展開する。古墳は本地域においても数多く築造されており、利根川右岸に遠見山古墳（5世紀後半）が築造されたのをはじめ、6世紀には王山古墳・総社二子山古墳、7世紀には愛宕山古墳・宝塔山古墳や蛇穴山古墳などの首長墓が造営され、これらは総社古墳群と呼称される。また、総社古墳群の南西1kmには7世紀後半に山王庵寺（放光寺）が建立され、塑像群や綠釉陶器、金銅製飾金具などが出土している。また、同寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術が用いられているとされる。

この後、元総社地区において上野国府・国分僧寺・国分尼寺が置かれ、古代上野国の文化的中心地として再編成される。上野国府は本遺跡地周辺が推定城となっており、これに関連する遺跡として元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）、関泉桶遺跡で東西方向、元総社明神遺跡遺跡で南北方向の大溝が確認されたことにより、国府域における北及び東外郭線が想定された。また、元総社蒼海遺跡群（9）から大型建物跡、元総社小学校校庭遺跡から大型掘立柱建物、元総社蒼海遺跡群（95）では2棟重なる掘立柱建物跡、元総社蒼海遺跡群（99）および国府28トレチでは掘込地業建物、元総社寺田遺跡では「國厨」「國」「曹司」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土している。更に周辺遺跡からは官人が使用していたと考えられる円面鏡、巡方（腰帶具）、綠釉陶器も出土し、国府の傍証する資料の増加が報告されている。

国分僧寺は昭和55年により本格的な調査が行われ、主要伽藍の礎石・築垣・壇などが捉えられている。国分尼寺は、昭和44・45年にトレチ調査が行われ、伽藍配置の憶測が可能になった。この結果を基に、平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査による寺域確認調査が行われ、南東・南西隅の築垣とそれに並走する溝、道路状遺構が確認された。

奈良時代から平安時代前半（8～9世紀）の集落跡は、牛池川と染谷川に挟まれた台地および牛池川左岸上に展開する傾向にある。対して国府推定城の中心部では希薄であることから、明確な区分けがなされていたことが看取される。10世紀に入ると元総社地域では集落数が増大し、その分布に偏在性はみられない。數こそ減少するものの、その傾向は11世紀にも継続する傾向がみられる。こうした集落域の変化は、国府関連施設が中枢としての機能が失われていたことに起因し、窓の構築材に同施設の瓦が転用されていることがそれを傍証する事例として指摘されている。

中世に入ると本地域は上野守護代に任命された総社長尾氏が総社城（蒼海城）を築城して本拠地とした。同城は染谷川とその支流牛池川に挟まれた、径1.2kmを縛張りとする県内最古級に位置付けられる城郭で、上野国府の地割を利用したものとされる。近年の区画整理事業に伴う発掘調査の増加により、主郭周辺の堀や建物跡、井戸などの関連遺構が調査されている。元総社蒼海遺跡群（27）では堀及び二の丸に関連する無数の柱穴群が確認され、元総社蒼海遺跡群（24・25・27）では12～15世紀代の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・荷腰香炉、白磁などの貿易陶磁が多数出土し、中心は15世紀後半である。また、本地域周辺には永禄8年（1565）に武田信玄が腰橋城の上杉謙信と交戦するために築いた石倉城をはじめ、大友城や北条氏直の配下・村上佐渡守の居城であった村上城などの城館が築城されている。

江戸時代になり、慶長6年（1601）に秋元長朝が入封するも、利根川西岸縁の植野に総社城を築いて蒼海城は廢城となった。なお、総社城が完成するまでの慶長9年（1604）からの10年間は蒼海城の東に位置する八日市城に在城している。長朝は領内の経済基盤を安定させるため、慶長9年（1604）に天狗岩用水を開削し、現在でもなお農業用水として利用されている。

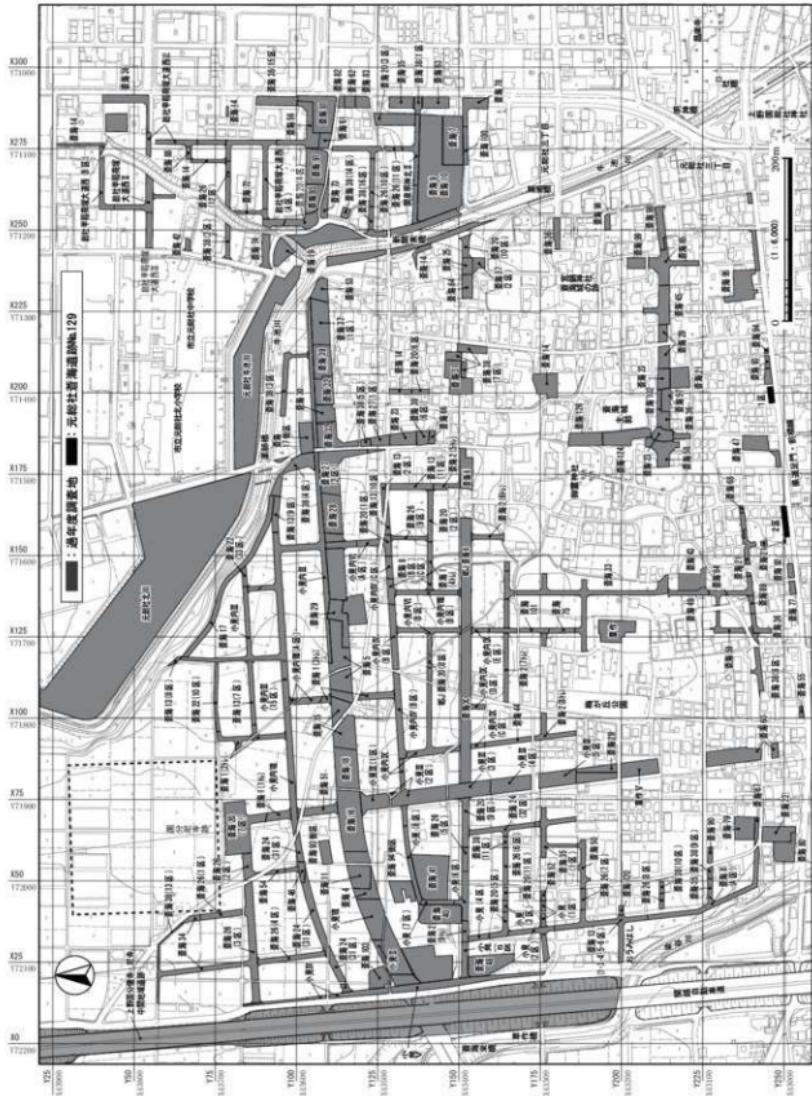


Fig. 4 元社蒼海遺跡群とグリッド設定図

Tab. 1 周辺道路一覧表

道線名	調査年度	時代					道線名	調査年度	時代					
		調文	弥生	古墳	奈良平安	中世			調文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
元禄社舊南造跡群(1)	2005		●		●		元禄社舊南造跡群(84)	2014			●			
元禄社舊南造跡群(2)	2005			●	●		元禄社舊南造跡群(85)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(3)	2005	●		●	●		元禄社舊南造跡群(88)	2014						
元禄社小豆造跡群	2005			●	●		元禄社舊南造跡群(89)	2014						
元禄社舊南造跡群(4)	2005	●	●		●		元禄社舊南造跡群(90)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(5)	2005			●	●		元禄社舊南造跡群(91)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(6)	2005			●	●		元禄社舊南造跡群(95)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(7)	2005			●	●		元禄社舊南造跡群(96)	2014						
元禄社舊南造跡群(8)	2006			●	●		元禄社舊南造跡群(97)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(9) (10)	2006	●		●	●		元禄社舊南造跡群(98)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(11)	2006			●	●		元禄社舊南造跡群(99)・上野 国野範囲内必確認調査33・34	2015			●			
元禄社舊南造跡群(12)	2006		●	●	●		トレンチ							
元禄社舊南造跡群(13)	2006	●		●	●		元禄社舊南造跡群(100)	2014			●	●		
元禄社舊南造跡群(14)	2008			●	●		元禄社舊南造跡群(101)	2014	●					
元禄社舊南造跡群(15)	2008			●	●		元禄社舊南造跡群(117)	2016			●	●		
元禄社舊南造跡群(16)	2008			●	●		元禄社舊南造跡群(118)	2016						
元禄社舊南造跡群(17)	2008		●	●	●		元禄社舊南造跡群(117街K)	2015			●	●		
元禄社舊南造跡群(18)	2008			●	●		元禄社舊南造跡群(93街K)				●	●		
元禄社舊南造跡群(19)	2008			●	●		元禄社小豆造跡	2000						
元禄社舊南造跡群(20)	2008			●	●		元禄社小豆川造跡	2002			●	●		
元禄社舊南造跡群(21)	2009			●	●		元禄社小豆川造跡	2002			●	●		
元禄社舊南造跡群(22)	2009			●	●		元禄社小豆IV造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(23)	2009			●	●		元禄社小豆VII造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(24)	2009	●		●	●		元禄社小豆VI造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(25)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2004			●	●		
元禄社舊南造跡群(26)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2001		●				
元禄社舊南造跡群(27)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2002			●	●		
元禄社舊南造跡群(28)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(29)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(30)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(31)	2009			●	●		元禄社小豆VI造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(32)	2010			●	●		元禄社小豆VI造跡	2003			●	●		
元禄社舊南造跡群(33)	2010		●	●	●		元禄社小豆VI造跡	2004			●	●		
元禄社舊南造跡群(34)	2010			●	●		元禄社小豆VI造跡	2004			●	●		
元禄社舊南造跡群(35)	2010	●		●	●		元禄社小豆VI造跡	2004			●	●		
元禄社舊南造跡群(36)	2010			●	●		元禄社小豆VI造跡	1984						
元禄社舊南造跡群(37)	2011			●	●		元禄社深川造跡	2002			●	●		
元禄社舊南造跡群(38)	2012			●	●		元禄社宅地道路1~8トレンチ	2000			●	●		
元禄社舊南造跡群(39)	2012			●	●		元禄社宅地道路9~12トレンチ	2009			●			
元禄社舊南造跡群(40)	2013	●		●	●		五郎社宅地道路19トレンチ	2000						
元禄社舊南造跡群(41)	2013	●		●	●		元禄社宅地道路20トレンチ	2000						
元禄社舊南造跡群(42)	2013			●	●		元禄社宅地トレンチ22・23	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(43)	2013			●	●		トレンチ・上野国府等範囲内必確認調査13トレンチ	2012						
元禄社舊南造跡群(44)	2013			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2011			●	●		
元禄社舊南造跡群(45)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(46)	2013			●			上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(47)	2013			●			トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(48)	2013	●		●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(49)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(50)	2013	●		●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(51)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(52)	2013			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(53)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(54)	2013			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(55)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(56) (61)	2013		●	●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(57)	2014			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(58)	2014			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(59)	2014			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(60)	2014			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(62)	2014			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(63)	2014			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(64)	2014			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(65)	2014			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(66)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(67)	2013			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(68)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(72)	2013			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(73)	2013			●	●		トレンチ	~						
元禄社舊南造跡群(81)	2014			●	●		上野国分寺跡(上野国分寺寺 域縦断調査)	2012			●	●		
元禄社舊南造跡群(82)	2014			●	●		トレンチ	~						

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社苔海土地区画整理事業の道路予定地である。調査区は県道足門・前橋線北側沿線上に 2 箇所の地点に分かれており、東側を 1 区、西側を 2 区と名称を付している。調査面積は 1 区約 93m²、2 区約 166 m²で総調査面積は約 259 m²である。なお、遺構名についても各区分ごとに付している。

調査区に被せる方眼は 2000 年に行われた上野国分尼寺跡確認調査から用いられている 4 m ごとの方眼（日本測地系）X = + 44000.000, Y = - 72200.000 (X 0・Y 0) を基点とする 4 m ピッチを使用し、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へ X : 156, X : 157, X : 158…、北から南へ Y : 245, Y : 246, Y : 247…、と設定した。本遺跡（1 区）の X : 199, Y : 245 の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X = + 43020.000 Y = - 71404.000

世界測地系 X = + 43374.915 Y = - 71695.766

調査方針は前橋市教育委員会との協議を行い、1 区は中央に埋設されている上水道管範囲は掘削しないこととし、2 区は調査区に隣接する道路幅が狭く表土掘削の排土運搬が困難と判断し、切り返しによる調査とした。

調査方法については、表土掘削→遺構確認→遺構掘削→遺構検出→写真撮影・断面・平面測量の手順で実施した。検出された遺構の記録保存は、平面・断面測量（縮尺 1 / 20）、写真撮影で対応した。平面測量はトータルステーションにより行い、断面測量は一部を除き手実測で記録した。写真記録は 35mm モノクロ・カラーリバーサル、デジタルカメラの 3 種類を使用し、1 区・2 区の調査区全景写真については、ドローンによる空撮も実施している。なお、現地調査にあたっては、各調査区が県道沿いに面していることから道路際にバリケード・夜間点滅灯などを設置し安全に十分配慮した。

2. 調査の経過

発掘調査は平成 30 年 10 月 2 日から平成 30 年 11 月 5 日まで行い、整理作業・報告書作成は平成 30 年 11 月 6 日～平成 31 年 3 月 5 日までの期間に実施した。経過概要は下記のとおりである。

【発掘調査】

10 月 2 日：プレハブ・駐車場予定地の除草作業を実施。10 月 3 日：前橋市教委・区画整理の担当者との現地打合せを実施。10 月 4 日：0.15 バックホーによる 1 区の表土除去を開始し、調査区間にバリケードを設置。10 月 5 日：0.25 バックホーによる 2 区東半の表土除去を開始し、調査区間にバリケードを設置。発掘補助員を動員し 1 区の遺構確認作業に着手。10 月 9 日：ボックスハウス・簡易トイレの搬入。1・2 区の基準点測量を設置。10 月 10 日：2 区東半の遺構確認作業および遺構調査を開始。10 月 16 日：2 区東半の遺構調査が終了したため前橋市教育委員会による 2 区東半の調査終了確認を実施。10 月 18 日：1 区の遺構調査を開始。10 月 22 日：0.25 バックホーによる 2 区西半の表土除去を開始。10 月 23 日：2 区西半の表土除去が終了。2 区西半の遺構確認および遺構調査を開始。10 月 26 日：2 区西半の遺構調査が終了したため前橋市教育委員会による 2 区西半の調査終了確認を実施。10 月 29 日：1 区の遺構調査を再開。0.25 バックホーによる 2 区の埋め戻しおよび整地作業を実施。10 月 31 日：1 区の遺構調査が終了したため前橋市教育委員会による 1 区の調査終了確認を実施。11 月 3 日：0.15 バックホーによる 1 区の埋め戻しおよび整地作業を実施。11 月 5 日：ボックスハウス・簡易トイレの撤収。現地による全作業行程を終了。

【整理作業・報告書作成】

11 月：遺構図面・写真整理。遺物整理。12 月：遺構図の修正・トレース、遺物写真撮影・実測。1 月：遺物トレース各挿図・図版作成。原稿執筆。報告書の編集作業。2 月：入稿・校正。3 月：印刷・製本。報告書刊行・納品。

IV 標準堆積土層

1区・2区の東西におよそ130m隔てた調査範囲は、西から東へ緩やかに傾斜した地形となっており、現況地形の高低差はおよそ1.1mを測る。調査前現況は区画整理に伴う整地が施されており、整地下にはⅡ層(浅間A軽石：1783年降下)、Ⅲ層が部分的に堆積している。Ⅱ・Ⅲ層については、近世以降の土地利用により形成されたものと考えられ、As-BおよびAs-C(浅間C軽石：3世紀後葉～4世紀前半降下)の混入が認められていない。ただし、As-Bについては1区のW-1・2号溝の遺構埋没土中に多く混入していることから、近世以降に造成や耕作などにより削平されたものと推測される。

遺構確認面は1区がIVa層、2区がIVb層の総社砂層漸移層上面としている。現況地形から遺構確認面までの深さは0～30cmを測り、2区西端では表直下にIVb層が露出している状態であった。両調査区は染谷川と牛池川に挟まれた台地上に立地しており、IVa・IVb層の下層にはAs-Sj(浅間一総社軽石：11,000年前降下)以降に堆積したとされる総社砂層が確認されている。V層下位には総社砂層、黒色粘質土(前橋上部泥炭層)などが厚く堆積しており、2区W-3号溝壁面の黒色粘質土層の堆積状態を観察すると、北から南、西から東へ緩やかに傾斜していることが窺える。黒色粘質土層中にはAs-Sjが多く混入しており、その下位にはAs-YP(浅間一板鼻黄色軽石：13,000～14,000年前降下:y.B.P.)の一次堆積層が確認されている。なお、基本層序の観察については、1区I-1号井戸の調査区東側壁面、2区W-3号溝の西側壁面を利用して柱状図を作成した。

1区・2区の基本土層は下記のとおりである。

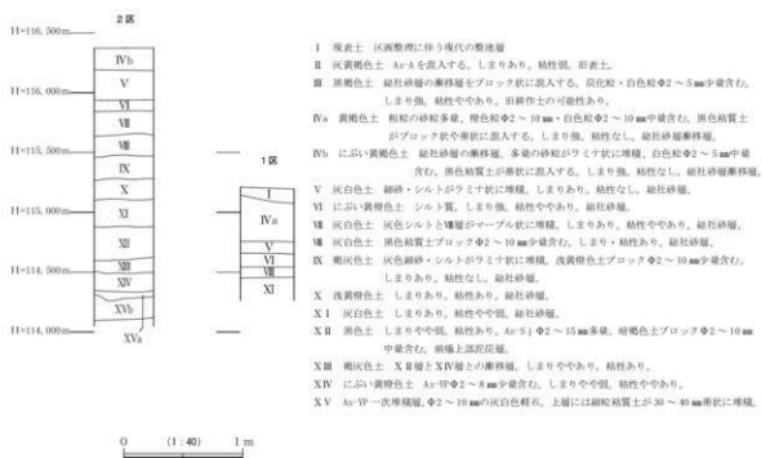


Fig. 5 標準堆積土層

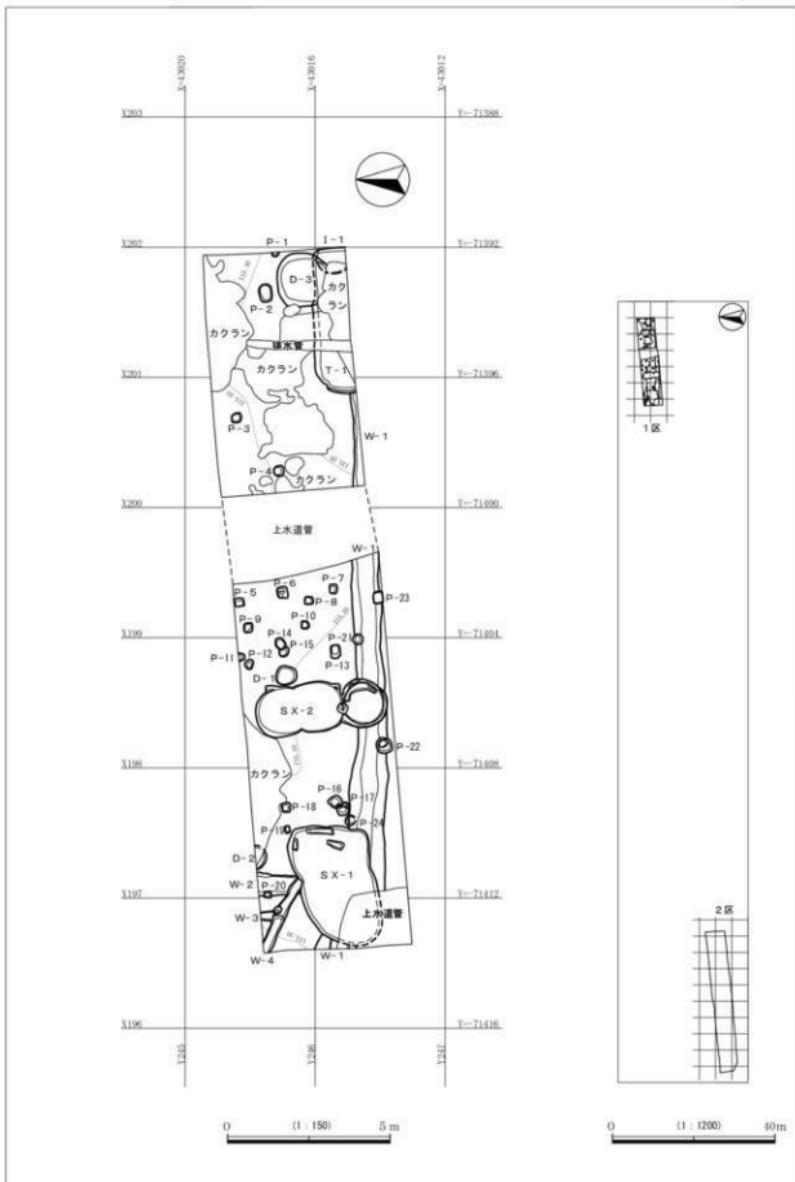


Fig. 6 元總社舊海遺跡群（129）1区遺構全体図

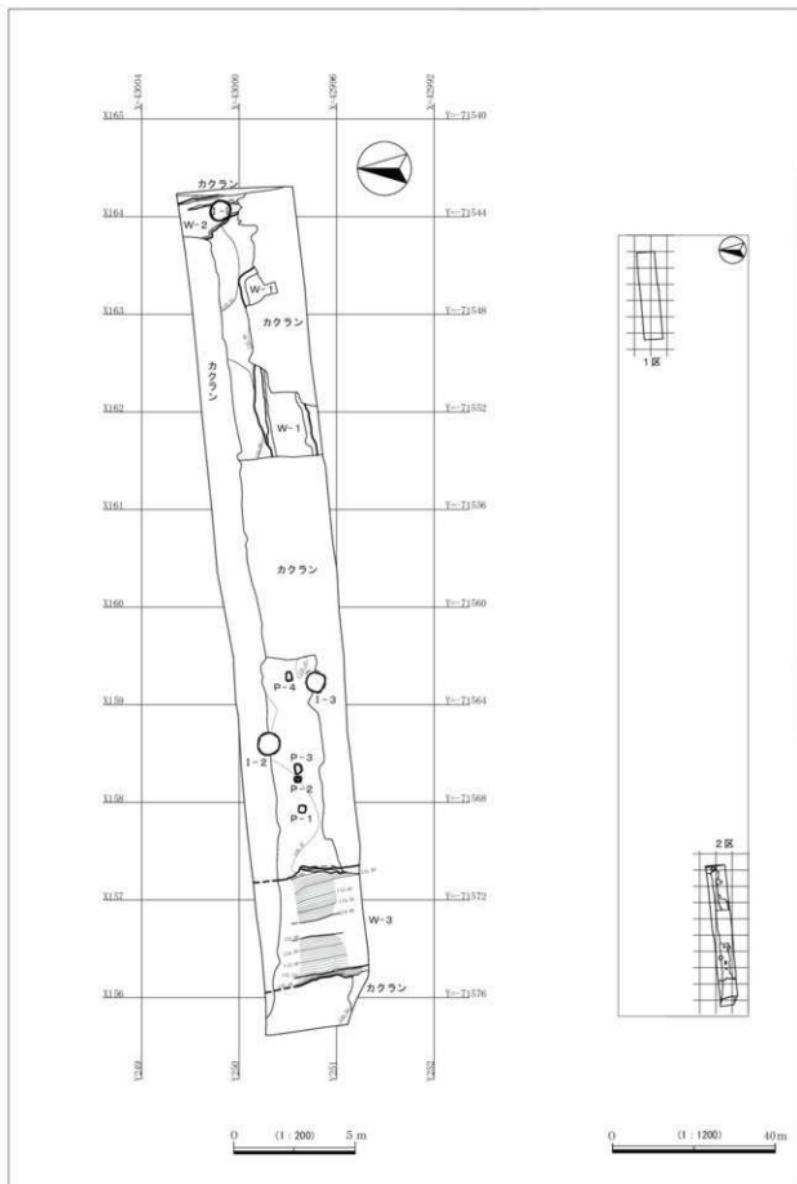


Fig. 7 元総社蒼海遺跡群(129) 2区遺構全体図

V 1区の遺構と遺物

1. 穴状遺構

T - 1号穴状遺構 (Fig. 8・14, PL. 2・5)

位置:X 200～202, Y 245・246 グリッド 主軸方向:N - 89° - E。規模:東西軸 4.48 m、南北軸 [1.18] m、深さ 60cm。プラン南側は調査区外へ延びる。形状等:平面形態はやや歪んだ方形と推測され、断面形態は箱型を呈する。底面の状態:凹凸は認められず概ね平坦である。重複:D - 3号土坑より古く、W - 1号溝、I - 1号土坑より新しい。遺構埋没状態:全体に総社砂層ブロックを多く混入する褐灰～灰黄褐色土が人為埋没している。遺物:埋没土下層から磁器碗が出土した。掲載資料は1点。時期:出土遺物から18世紀以降と想定される。備考:検出された範囲内からは、ピットなどの付帯施設は確認されなかった。

2. 溝

W - 1号溝 (Fig. 8・14, PL. 2・5)

位置:X 196～200, Y 245・246 グリッド 主軸方向:N - 90° - E。規模:全長 [10.1] m × 上端幅 0.75 ~ 1.15 m、下端幅 0.36 ~ 0.5 m。深さ 24 ~ 37cm。形状等:東西方向へ直線的に走向する。断面は皿状～逆台形状を呈する。底面の状態:多少の凹凸は認められるが概ね平坦である。底面の標高は東側から西側へ 20cmほど傾斜している。重複:T - 1号穴状遺構・SX - 1・2号不明遺構、P - 21～23より古く、P - 24より新しい。遺構埋没状態:As-B を多く混入する黒褐～褐色土が自然埋没している。遺物:埋没土上層から古代瓦、かわらけ、陶器(白磁皿・瓶・擂鉢・焰烙)、鉄製品(鍔状農具カ)、石製品(石臼・石鉢)が出土している。掲載資料は6点。時期:埋没状態や出土遺物などから、12～15世紀後半と想定される。備考:W - 2号溝とは軸方位が直交していることや、埋没土が近似していることから同時期に機能していたと推測される。詳細な時期や性格については不明であるが、埋没状態からは常態的な流水を示す痕跡が認められておらず、区画溝の可能性が考えられる。

W - 2号溝 (Fig. 9, PL. 2)

位置:X 197, Y 245 グリッド 主軸方向:N - 0° - E。規模:全長 [1.36] m × 上端幅 0.52 ~ 0.71 m、下端幅 0.42 m。深さ 32cm。形状等:南北方向へ直線的に走向すると推測される。断面は逆台形状を呈する。底面の状態:凹凸は認められず概ね平坦である。重複:W - 4号溝、SX - 1号不明遺構、P - 20より古い。遺構埋没状態:As-B を多く混入する黒褐～褐色土が自然埋没している。遺物:埋没土中から土師器、須恵器、かわらけが少量出土しているが、いずれも細片であるため図示はしなかった。時期:埋没土中に As-B が混入していることから、12世紀初頭以降と想定される。備考:W - 1号溝とは軸方位が直交していることや、埋没土が近似していることから同時期に機能していたと推測される。詳細な時期や性格については不明である。

W - 3号溝 (Fig. 9, PL. 2)

位置:X 197, Y 245 グリッド 主軸方向:N - 0° - E。規模:全長 [0.41] m × 上端幅 0.25 ~ 0.32 m、下端幅 0.16 ~ 0.23 m。深さ 21cm。形状等:南北方向へ直線的に走向し、南端はW - 4号溝とY字状に交わる。断面は逆台形状を呈する。底面の状態:凹凸は認められず概ね平坦である。重複:W - 4号溝より古い。遺構埋没状態:自然埋没している。遺物:出土していない。時期:埋没土から近世以降と推測される。備考:遺構の性格については不明であるが、埋没土には常態的な流水を示す痕跡が認められなかった。規模や位置関係などを考慮するとW - 4号溝およびSX - 1号不明遺構との関連性が窺われる。

W - 4号溝 (Fig. 9, PL. 2)

位置:X 196・197, Y 245 グリッド 主軸方向:N - 65° - W。規模:全長 [2.5] m × 上端幅 0.26 ~ 0.38 m、下端幅 0.18 ~ 0.24 m。深さ 9 ~ 16cm。形状等:北西 - 南東方向へ直線的に走向すると推測され、中央付近で

W - 3号溝とY字状に交わる。断面は箱状を呈する。底面の状態：部分的に凹凸が認められる。W - 3号溝と交わる箇所の北西側は一段深く掘り込まれている。重複：SX - 1号不明遺構より古く、W - 2・3号溝より新しい。遺構埋没状態：灰黄褐色～暗褐色土が自然埋没している。遺物：北西側の底面付近からは、人頭大の自然礫がまとまって出土している。時期：埋没土から近世以降と推測される。備考：自然礫が出土していることを考慮すると排水目的の可能性が考えられるが、埋没土には常態的な流水を示す痕跡は認められていない。位置関係を考慮するとSX - 1号不明遺構との関連性が窺われる。

3. 井戸

I - 1号井戸 (Fig. 9、PL. 2)

位置：X 198、Y 246 グリッド 規模：長軸 [0.9] m、短軸 [0.79] m、深さ [1.9] m以上。形状等：プラン南東側が調査区域外のため詳細は不明であるが、円形状と推測される。素掘り。重複：T - 1号竪穴状遺構、D - 3号土坑より古い。遺構埋没状態：上層は総社砂層ブロックを多く混入する灰黄褐色土が人為埋没している。中層は褐灰～黒褐色土が自然埋没している。遺物：出土していない。時期：詳細な時期は不明であるが、重複している遺構との関係から、18世紀以前と想定される。備考：掘削深度が深いことから、安全を配慮し深さ 1.9 m のところで掘削を中断した。

4. 土坑

D - 1号土坑 (Fig. 9、PL. 2)

位置：X 198、Y 245 グリッド 規模：長軸 [0.63] m、短軸 [0.58] m、深さ 11cm。形状等：平面形態は不整形、断面形態は皿状を呈する。底面の状態：凹凸は認められない。遺構埋没状態：灰黄褐色土が自然埋没している。遺物：出土していない。時期：埋没土から近世以降と推測される。備考：SX - 2号不明遺構や周辺のピットと埋没土が近似している。

D - 2号土坑 (Fig. 10・15、PL. 2・5)

位置：X 197、Y 245 グリッド 規模：長軸 [0.74] m、短軸 [0.34] m、深さ 41cm。形状等：平面形態は円形状と推測され、断面形態は箱型を呈する。底面の状態：凹凸は認められず概ね平坦である。遺構埋没状態：混入物の少ない灰黄褐色土が自然埋没している。遺物：底面から陶器碗が1点出土した。掲載資料は1点。時期：出土遺物から18世紀以降と想定される。

D - 3号土坑 (Fig. 10・15、PL. 2・5)

位置：X 201、Y 245・246 グリッド 規模：長軸 [1.64] m、短軸 [1.44] m、深さ 54cm。形状等：平面形態は隅丸方形、断面形態は逆台形を呈する。北側壁面には工具痕と思われる垂直方向の痕跡が認められる。底面の状態：部分的に凹凸が認められる。重複：T - 1号竪穴状遺構、I - 1号井戸より新しい。遺構埋没状態：上層は灰黄褐色土が自然埋没しており、中層～下層は灰黄褐色土が人為埋没している。遺物：埋没土下層から陶磁器（碗・皿・段重・灯明受皿・擂鉢）が少量出土した。掲載資料は3点。時期：出土遺物から18世紀以降と想定される。備考：埋没土や規模などがSX - 2号不明遺構と類似している。

5. 不明遺構

SX - 1号不明遺構 (Fig. 10・15、PL. 2・6)

位置：X 196・197、Y 245・246 グリッド 規模：長軸 3.88 m、短軸 2.14 ~ 2.5 m、深さ 47cm。形状等：平面形態は不整形、断面形態は逆台形を呈する。底面の状態：概ね平坦であるが東側の一部では深さ 3 ~ 5 cm の凹穴が集中する範囲が認められる。凹穴の方向性には連続性が認められることから、構築時の工具痕と推測される。

重複：W - 1・2・4号溝より新しい。遺構埋没状態：褐灰～黒褐色土を基調とする。上層～中層はしまりが弱く、2次的に廃棄された炭化物が多く認められることから人為埋没していると考えられる。下層は黒褐～褐灰色土が自然埋没している。遺物：埋没土中からは土師器小片、陶磁器類（碗・小杯・皿・壺・甕・香炉・灯明皿・擂鉢・焰燈）が出土した。掲載資料は9点。時期：出土遺物から18世紀以降と想定される。備考：埋没土の中～下層の東壁面際からは、廃棄されたような状態で大型礫が4点出土し、南壁や西壁周辺では掌～人頭大ほどの大きさの自然礫がまとまって出土している。

S X - 2号不明遺構 (Fig.11・16・17、PL. 2・6・7)

位置：X 198、Y 245・246 グリッド 規模：長軸 4.05 m、短軸 1.49～1.54 m、深さ 66～70cm。形状等：平面形態は径 1.5 m ほどの円形土坑が3基連結したような不整形を呈する。断面形態は箱状を呈する。底面の状態：北側～中央は概ね平坦である。南側は北側や中央より 4～8 cm 深く掘り込まれており、東壁際には幅 10～20cm の鏽状工具と考えられる痕跡が弧状に確認されている。重複：W - 1号溝より新しい。遺構埋没状態：上層は褐灰～黒褐色土を基調とする人為埋没であり、2～4層からは遺物や自然礫が一括廃棄されたような状態で出土している。中～下層は褐灰色土が自然埋没している。出土遺物：埋没土上層から陶磁器類（碗・皿・甕・鉢）、瓦、石製品（凹石・加工礫）、自然礫（掌～人頭大）などが出土しており、瓦（丸瓦・軒棟瓦・棟瓦）が大半を占めている。さらに、棟瓦の端部には、『○吉』『□改』『○へ上』などの刻印が施されているものが12点認められ、『○吉』の刻印されているものは10点である。掲載資料は11点。時期：出土遺物から18～19世紀と推測される。備考：遺構の平・断面形態から廻の可能性が考えられるが、壁面や埋没土からは木製桶を埋め込んだような痕跡は認められていない。出土遺物については、最終埋没土中から出土したものであり、不要となった遺物を一括廃棄した様相を示している。そのうち、加工石製品や自然礫などの多くは被熱により破碎・変色している。

6. ピット (Fig.11・12・13)

1区ではピットが24基検出されている。埋没土の観察から大半は近世以降に帰属すると考えられる。P - 5・6・7・13・15・17・18の7基は東西、南北方向へ直線状に位置している。さらに、平面・断面形態に共通性が認められることから柱穴の可能性が考えられる。しかし、各ピット間の長さが一定ではなく、調査区も狭長であることから上記の7基のみでは明確な掘立柱建物跡を構成するには至らなかった。

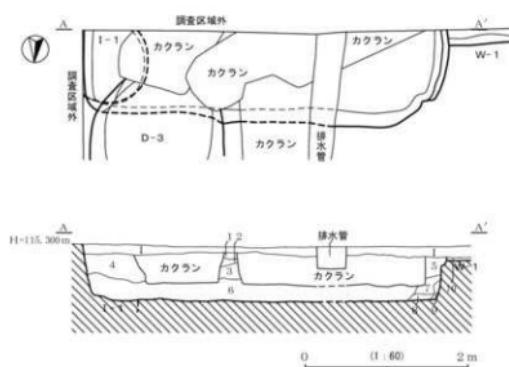
各ピットの計測値については、Tab. 2の1区ピット一覧表に記載した。

Tab. 2 1区ピット一覧表 単位：cm

遺構名	位置	平面形	幅	深さ	時期・所見
P 1	X 201、Y 215	不整形	23 × [14]	15	近世以降
P 2	X 201、Y 215	不整形	54 × 39	31	近世以降
P 3	X 200、Y 215	不整形	30 × 28	20	近世以降
P 4	X 200、Y 215	不整形	31 × 31	24	近世以降
P 5	X 199、Y 215	長方形	29 × 26	32	近世以降
P 6	X 199、Y 215	不整形	35 × 32	31	近世以降
P 7	X 199、Y 216	長方形	28 × 24	32	近世以降
P 8	X 199、Y 216	長方形	26 × 23	8	近世以降
P 9	X 199、Y 216	方形容	29 × 27	14	近世以降
P 10	X 199、Y 216	不整形	24 × 24	18	近世以降
P 11	X 199、Y 216	不整形	28 × [18]	9	近世以降
P 12	X 198、Y 215	不整形	31 × 25	8	近世以降

遺構名	位置	平面形	幅	深さ	時期・所見
P 13	X 198、Y 206	長方形	40 × 29	43	近世以降
P 14	X 198・199、Y 215	不整形	37 × 30	22	近世以降
P 15	X 198、Y 215	不整形	29 × [22]	31	近世以降
P 16	X 197、Y 206	長方形	37 × 37	16	近世以降
P 17	X 197、Y 206	方形容	38 × 38	33	近世以降
P 18	X 197、Y 205	方形容	28 × 26	26	近世以降
P 19	X 197、Y 205	長方形	23 × 15	14	近世以降
P 20	X 197、Y 205	長方形	22 × 19	29	近世以降
P 21	X 198・199、Y 246	円桶	32 × 32	26	近世以降
P 22	X 198、Y 206	不整形	48 × 47	24	近世以降
P 23	X 199、Y 206	長方形	37 × 29	20	近世以降
P 24	X 197、Y 206	稍円形	33 × 29	29	中世以降

堅穴状遺構 T-1号堅穴状遺構



W-1号溝 W-1号溝

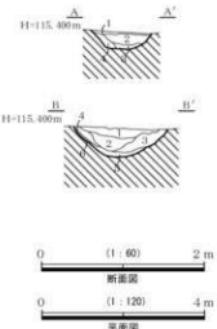
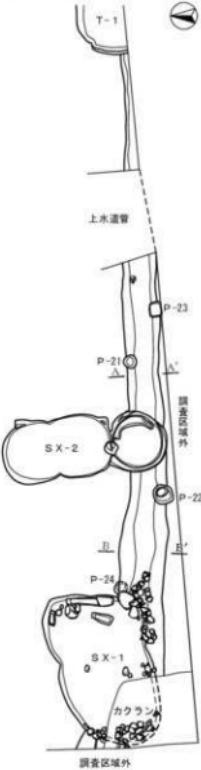
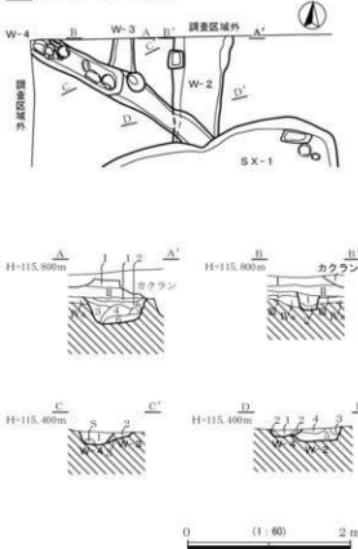


Fig. 8 1区遺構実測図 (1)

調査区画 W-2・3・4号溝



W-2号溝 土層説明 (A-A')

- 黒褐色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他土と無機合む。しまりあり。粘性弱。
- 黒褐色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 少量、炭化鉄少含む。しまりあり。粘性弱。
- 褐灰色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 20\text{mm}$ 中量、炭化鉄少含む。しまりあり。粘性弱。
- 褐灰色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、炭化鉄少含む。しまりあり。粘性弱。
- 黒褐色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他土と少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
- 黒色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 黒色粘質土ブロック $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、炭化鉄少、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 少量含む。しまり・粘性あり。

W-3号溝 土層説明 (B-B')

- 灰黒褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 黒褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他土と少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

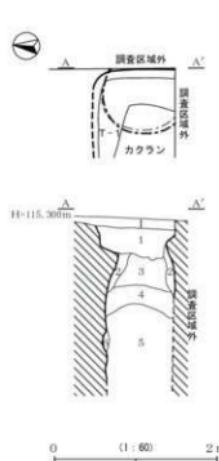
W-3号溝 土層説明 (C-C')

- 褐褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他土と少量含む。しまり・粘性あり。
- 褐褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、炭化鉄少、他社砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまり・粘性やや弱。
- 灰黒褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまり・粘性やや弱。

W-2・3号溝 土層説明 (D-D')

- 褐褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 褐褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 20\text{mm}$ 中量、炭化鉄少、他社砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 褐灰色土 从灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 褐褐色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 黒褐色土 $A=0\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 多量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 中量、他社砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまり強。粘性やや弱。

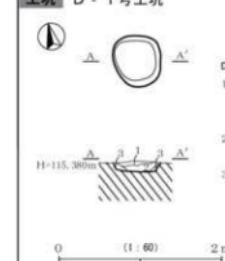
井戸 I-1号井戸



I-1号井戸 土層説明 (A-A')

- 灰黒褐色土 他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 50\text{mm}$ 、他社砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 30\text{mm}$ 多量、灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、炭化鉄少含む。しまりあり。粘性弱。
- 褐灰色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 15\text{mm}$ 少量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
- 黒褐色土 从灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 15\text{mm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 褐灰色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 中量、炭化鉄・他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 15\text{mm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 暗褐色土 灰色粘質土ブロック $\Phi 2 \sim 30\text{mm}$ 中量、灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 、他社砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 黒褐色土 他社砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまりやや弱。粘性あり。

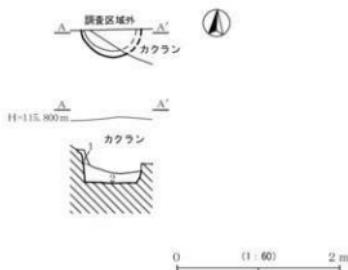
土坑 D-1号土坑



D-1号土坑 土層説明 (A-A')

- 灰黒褐色土 灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 30\text{mm}$ 、黑色粘質土ブロック $\Phi 2 \sim 10\text{mm}$ 少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 褐灰色土 白色粒、白色粒 $\Phi 2 \text{mm}$ 、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 20\text{mm}$ 中量、他土と少量含む。しまり強。粘性弱。
- 灰黒褐色土 白色粒 $\Phi 2 \text{mm}$ 、灰白色粒 $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 、他社砂層ブロック (漂移層) $\Phi 2 \sim 5\text{mm}$ 少量含む。しまり強。粘性やや弱。

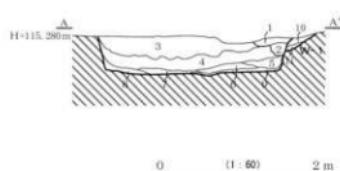
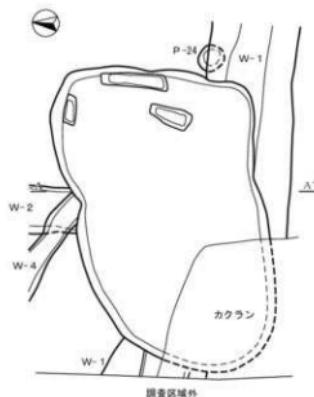
Fig. 9 1区遺構実測図 (2)

土坑**D - 2号土坑****D-2号土坑 土壌説明 (A-A')**

- 1 灰黃褐色土 塵化鉄・灰白色粒Φ2～5mm少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 2 灰黃褐色土 灰白色粒Φ2～5mm少量、炭化鉄微細含む。しまりややあり。粘性弱。

D - 3号土坑**D-3号土坑 土壌説明 (A-A')**

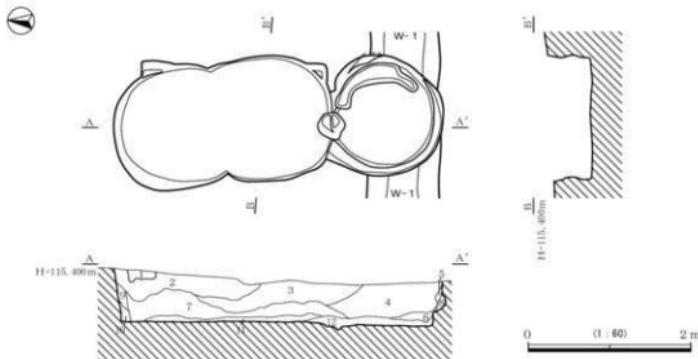
- 1 灰黃褐色土 灰白色粒Φ2～5mm中量、炭化鉄・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～30mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。
- 2 にじみ灰褐色土 総社砂層ブロック（白）Φ2～100mm・総社砂層ブロック（黄）Φ2～50mm・総社砂層ブロック（白）Φ2～10mm多量、灰白色粒Φ2～5mm中量。炭化鉄少數含む。
- 3 灰黃褐色土 総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～50mm中量、総社砂層ブロック（白）Φ2～30mm中量。炭化鉄・灰白色粒Φ2～5mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。
- 4 褐灰色土 灰色砂粒・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～10mm中量。炭化鉄・総社砂層ブロック（白）Φ2～10mm少數含む。
- 5 灰黃褐色土 総社砂層ブロック（白）Φ2～50mm多量、炭化鉄・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～10mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。
- 6 にじみ灰褐色土 総社砂層ブロック（白）Φ2～10mm多量。炭化鉄少數含む。しまりややあり。粘性弱。

不明遺構**SX - 1号不明遺構****SX - 1号不明遺構 土壌説明 (A-A')**

- 1 褐灰色土 砂粒中量、炭化鉄・灰白色粒Φ2～5mm少數含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 2 褐灰色土 灰白色粒Φ2～5mm中量、炭化鉄・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～20mm・礫中量少數含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 3 褐灰色土 炭化鉄・灰白色粒Φ2～5mm中量、堆土粒・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～40mm・礫中量10～40mm少數含む。しまり。粘性弱。
- 4 黑褐色土 炭化鉄多量、総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～30mm中量。堆土粒・灰白色粒Φ2～5mm・礫Φ10～120mm少數含む。しまり。粘性やや弱。
- 5 黑褐色土 炭化鉄中量、堆土粒・灰白色粒Φ2～5mm・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～10mm少數含む。しまり・粘性ややあり。
- 6 褐灰色土 細砂砂層ブロック（廻移層）Φ2～50mm多量、炭化鉄・灰白色粒Φ2～5mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。
- 7 褐灰色土 炭化鉄中量、灰白色粒Φ2～5mm・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～5mm・礫Φ20mm少數含む。しまり・粘性弱。
- 8 褐灰色土 炭化鉄中量、総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～5mm少量。灰白色粒Φ2～5mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。
- 9 褐灰色土 炭化鉄中量、総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～5mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。
- 10 褐灰色土 Ar-8Φ2mm中量。炭化鉄・総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～10mm少數含む。しまりややあり。粘性弱。W-1号復元段土。
- 11 褐灰色土 炭化鉄・Ar-8Φ2mm中量。総社砂層ブロック（廻移層）Φ2～5mm少數含む。しまりややあり。粘性やや弱。W-1号復元段土。

Fig.10 1区遺構実測図 (3)

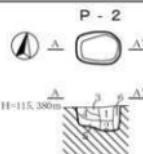
不明透構 SX - 2号不明透構



SX - 2号不明透構 土層説明 (A-A')

- にじみ 黄褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 50$ mm多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 20$ mm中量、細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 10$ mm少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 褐灰色土 硬化粘土、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm中量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm少量含む。しまり・粘性やや弱。
- 褐灰色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 5$ mm中量含む。しまり弱。粘性やや弱。
- 黒褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm中量、炭化粘土少量含む。しまり弱。粘性やや弱。
- 褐灰色土 Hr-B $\Phi 2$ mm、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 黒褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm中量、炭化粘土少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 黒褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm中量、細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 10$ mm中量、炭化粘・細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm・細粒砂層ブロック (黒) $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
- 褐灰色土 Hr-B $\Phi 2$ mm、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまりあり。粘性弱。
- にじみ 黄褐色土 細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 10$ mm多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまり強。粘性弱。
- 褐灰色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm中量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。
- 褐灰色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 30$ mm・細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 30$ mm中量含む。しまりあり。粘性やや弱。
- 黒褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 20$ mm多量含む。しまりあり。粘性やや弱。

ピット



P-2号ピット 土層説明 (A-A')

- 褐灰色土 硬化粘・灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm少量、細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまり・粘性弱。
- 黒褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 10$ mm少量含む。しまり・粘性やや弱。
- 褐灰色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 10$ mm少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 褐灰色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 2$ mm少量含む。しまり・粘性やや弱。
- 褐褐色土 硬化粘・灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 50$ mm中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 灰褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまりやや弱。粘性弱。

P-1号ピット 土層説明 (A-A')

- 褐灰色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 5$ mm少量含む。しまり・粘性弱。
- 褐灰色土 細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 5$ mm中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm少量、炭化粘・無移層含む。しまりやや弱。粘性弱。
- P-3号ピット 土層説明 (A-A')
- 灰褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm・細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 20$ mm中量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 黒褐色土 灰化粘中量、細粒砂層ブロック (無移層) $\Phi 2 \sim 10$ mm少量含む。しまりあり。粘性やや弱。

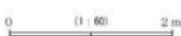
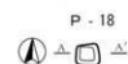


Fig.11 1区遺構実測図 (4)



Fig.12 1区遺構実測図 (5)

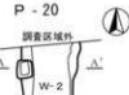
ピット



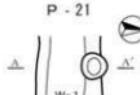
H=115.380m
A A'
W-1



H=115.380m
A A'



H=115.380m
A A'
W-2



H=115.380m
A A'
W-1

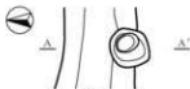
P-18号ピット 土層説明 (A-A')

1. 灰灰色土 灰白色粘Φ2~5mm中量、総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~5mm少量含む。しまりあり。粘性弱。
2. 黑褐色土 総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~20mm、黑色粘質土ブロックΦ2~10mm中量、灰白色粘Φ2~5mm少量含む。しまりあり。粘性弱。

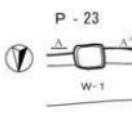
P-19号ピット 土層説明 (A-A')

1. 灰黃褐色土 灰白色粘Φ2~5mm、総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~20mm中量、灰白色粘Φ2mm少量含む。しまりあり。粘性弱。

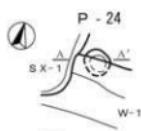
P-22号ピット



H=115.380m
A A'
W-1



H=115.380m
A A'
W-1



H=115.380m
A A'
W-1

P-22号ピット 土層説明 (A-A')

1. 灰灰色土 As-B Φ2mm、灰白色粘Φ2~5mm中量、他土粒・炭化物少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
2. 黑褐色土 As-B Φ2mm多量、灰白色粘Φ2~5mm中量、他土粒・炭化物少量含む。しまりやややあり。粘性弱。

P-23号ピット 土層説明 (A-A')

1. 灰灰色土 総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~5mm少量、 As-B Φ2mm、灰白色粘Φ2~5mm少量含む。しまり、粘性弱。
2. 灰褐色土 総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~20mm中量、 As-B Φ2mm、灰白色粘Φ2~5mm少量含む。しまりややあり。粘性弱。

P-20号ピット 土層説明 (A-A')

1. 灰灰色土 灰白色粘Φ2~5mm中量、 As-B Φ2mm、総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~5mm少量含む。しまりややあり。粘性弱。
2. 黑褐色土 灰白色粘Φ2~5mm、総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~5mm中量含む。しまりあり。粘性やや強。

P-21号ピット 土層説明 (A-A')

1. 灰灰色土 As-B Φ2mm、灰白色粘Φ2~5mm中量、灰化粘・総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~10mm少量含む。しまりややあり。粘性弱。

P-24号ピット 土層説明 (A-A')

1. 黑褐色土 灰白色粘Φ2~5mm多量、総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~20mm中量、黒色粘質土ブロックΦ2~5mm少量、炭化物微量含む。しまりあり。粘性やや弱。人為埋没。
2. 黑褐色土 総社砂層ブロック(堆積層)Φ2~30mm多量、黑色粘質土ブロックΦ2~5mm中量、灰白色粘Φ2mm少量含む。しまりややあり。人為埋没。

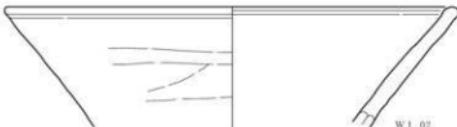
0 (1:60) 2 m

Fig.13 1区遺構実測図 (6)

T-1号竖穴状遗構



T 1_01
(1/3)



W 1_02
(1/3)

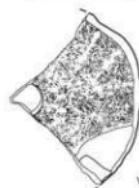
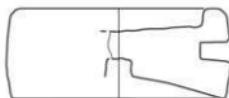
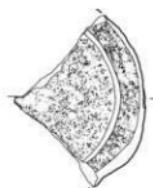
W-1号溝



W 1_01
(1/3)



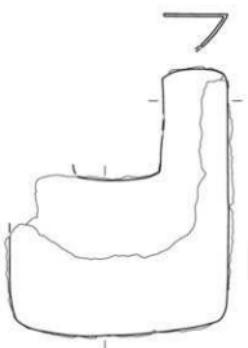
W 1_03
(1/3)



W 1_04
(1/6)



W 1_05
(1/6)



W 1_06
(1/4)

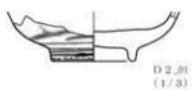
0 10cm 1:3

0 10cm 1:4

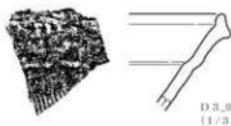
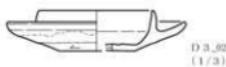
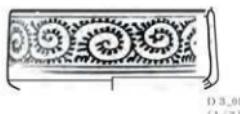
0 20cm 1:6

Fig.14 1区遺物実測図(1)

D-2号土坑



D-3号土坑



S X-1号不明遗構

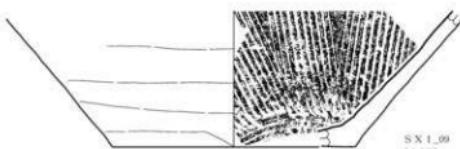
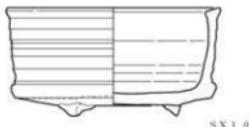
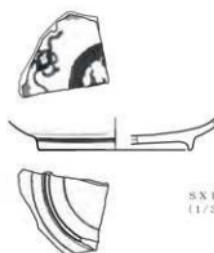
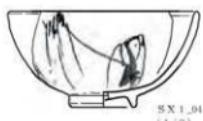
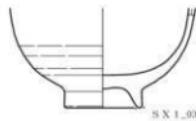
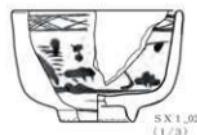
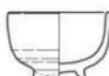
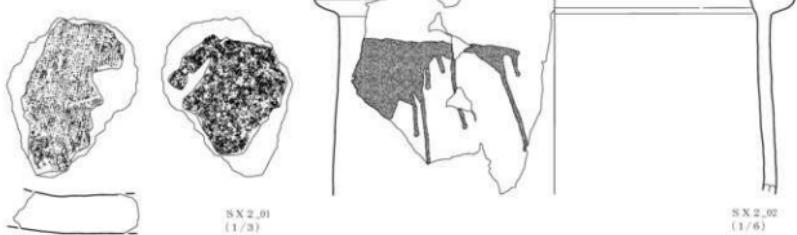


Fig.15 1区遺物実測図 (2)

S X - 2 号不明遺構 (1)



株輪トーン (SX2_02)

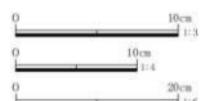
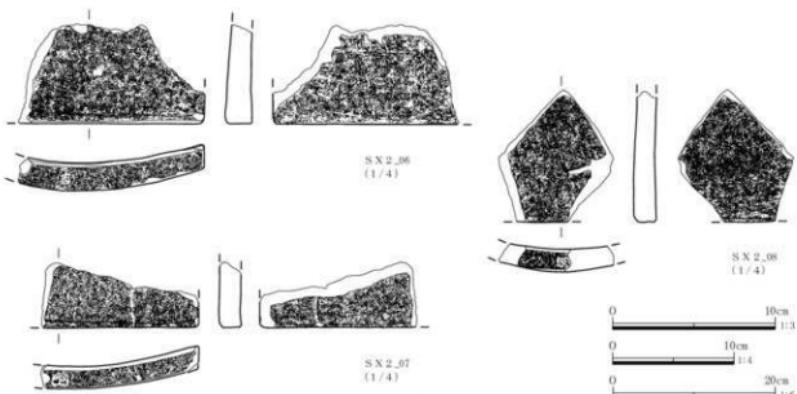
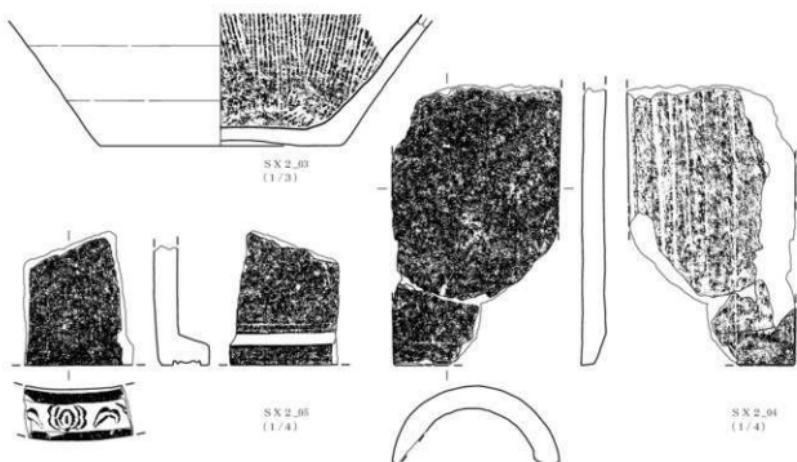


Fig.16 1区遺物実測図 (3)

S X-2号不明遺構 (2)



Fig.17 1区遺物実測図 (4)

Tab. 3 1号出土遺物観察表 (1)

T - 1号竪穴状遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 丸瓶	口径 9.0 底径 3.7 器高 5.3	②白 ④1/2	外面：輪轂整形。一重圓線文内に柳竹文。高台二重圓線文。墨付無地。 内面：輪轂整形。二重圓線文内に五弁花。	覆土	肥前系。 陶始染付。

W - 1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	白磁 皿	口径 (9.5) 底径 (3.8) 器高 2.1	②灰白 ④1/4	外面：輪轂整形。 内面：輪轂整形。見込みにトチ痕。高台に抉り。	覆土上層	全面施釉。
2	陶器 鉢	口径 (28.0) 器高 [7.4]	①普通 ②褐灰 ③白色粒・角閃石 ④口縁～体部片	外面：輪轂整形。体部ナデ。煤付着。 内面：輪轂整形。	覆土上層	
3	陶器 内耳鉢	底径 (21.8) 器高 [5.7]	①普通 ②褐灰 ③白色粒・黒色粒 ④体部～底部片	外面：輪轂整形。体部ナデ後下端鋸削り。 内面：輪轂整形。体部餘ナデ。	覆土上層	
番号	器種	法量(cm・g) / 成・整形技法の特徴				
4	石製品 石臼	長さ [21.1] 幅 [16.2] 厚さ 11.1 重さ 2,559。上臼。安山岩製。			覆土上層	
5	石製品 石鉢	口径 (32.0) 底径 (24.6) 器高 15.9 重さ 3,621. 1/3。内面は顯著な摩耗痕。安山岩製。			覆土上層	
6	鉄製品 錐状鉄製品	長さ 21.9 幅 [17.9] 厚さ [2.7] 重さ 865。左側上部欠損。			覆土上層	

D - 2号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 碗	底径 5.1 器高 [3.0]	①普通 ②灰 ④体部下半～底部	外面：輪轂整形。体部に山水紋、下位に一重、高台二重の圓線文。 内面：輪轂整形。墨付に砂付着。	覆土下層	肥前系。 陶始染付。

Tab. 4 1区出土遺物観察表(2)

D - 3号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	磁器 染付段重	口径 12.4 器高 [4.9]	④体部～口縁	外面：輪郭整形。体部上位に一重。下位に二重の圓錐紋内に焰草文を施す。 内面：輪郭整形。口縁無釉。	覆土	
2	陶器 灯明受皿	口径 [11.0] 底径 [4.6] 器高 2.5	①普通 ②灰褐 ③白色粒 ④1/3	外面：輪郭整形。体部下半～底部回転削り。 口縁～体部上位鉄泥施釉。 内面：輪郭整形。鉄泥施釉。	覆土	志戸呂燒。
3	陶器 擂鉢	器高 [5.9]	①普通 ②にぶい黄褐 ③白色粒 ④ 口縁～体部上部	外面：輪郭整形。 内面：輪郭整形。口縁部内面に様。 内外鉄釉。	覆土	瀬戸・美濃系。

S X - 1号不明遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 小碗	口径 (6.3) 底径 3.2 器高 4.2	①普通 ②灰白 ③白色粒 ④1/2	外面：輪郭整形。回転削り。 内面：輪郭整形。 高台無釉。灰釉。	覆土	瀬戸・美濃系。
2	陶器 碗	口径 (10.5) 底径 (4.6) 器高 6.8	①普通 ②灰 ③1/2	外面：輪郭整形。灰須絵染付。 内面：輪郭整形。 蓋付に砂付。	覆土	肥前系。 波佐美。 陶船染付。
3	陶器 碗	底径 (4.7) 器高 [6.1]	①普通 ②にぶい黄褐 ③白色粒・黒 色粒 ④体部～底部1/4	外面：輪郭整形。 内面：輪郭整形。 貫入式。蓋付無釉。	覆土	瀬戸・美濃系。
4	陶器 瓶	口径 (11.8) 底径 (4.0) 器高 5.9	①普通 ②灰黄 ③白色粒 ④1/3	外面：輪郭整形。鉄鉢具による模文。 内面：輪郭整形。 外面部下端～高台内無釉。	覆土	瀬戸・美濃系。
5	陶器 小皿	口径 (10.6) 底径 (6.0) 器高 1.9	①普通 ②浅黄 ③黑色粒 ④1/2	外面：輪郭整形。体部回転削り。外面部下 半～内面、鉄釉施し。灰釉剥け。 内面：輪郭整形。	覆土	
6	磁器 染付皿	底径 (9.4) 器高 [1.9]	②灰白 ④体部下位～底部片。	外面：輪郭整形。体部下位一重、高台に二重。 高台内に一重圓窓文。体部七宝つなぎ文。見 込み窓。 内面：輪郭整形。蓋付無釉。	覆土	唐津。
7	陶器 香炉	口径 (13.2) 底径 (12.2) 器高 6.6	①普通 ②浅黄 ③白色粒 ④1/5	外面：輪郭整形。底部～脇部路削り。底部に 櫛を點け。底部に螺旋状凹溝。 内面：輪郭整形。筋動。	覆土	黄瀬戸。
8	陶器 擂鉢	口径 (36.0) 器高 [9.8]	①普通 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～ 体部片	外面：輪郭整形。筋動。 内面：輪郭整形。筋動。	覆土	瀬戸・美濃系。
9	陶器 擂鉢	底径 (15.0) 器高 [8.2]	①普通 ②浅黄 ③白色粒 ④底部 ～体部片	外面：輪郭整形。体部回転窓ナデ。底部回転 糸切り。筋動。 内面：輪郭整形。鉄鉢。	覆土	

S X - 2号不明遺構

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 2.4	①酸化焰 ②灰～にぶい黄褐 ③白色 粒・石英 ④破片	背面：布目直瓶。 凸面：泥ナデ。	覆土上層	
2	陶器 中壇	口径 (59.2) 器高 [25.1]	①普通 ②にぶい黄褐 ③白色粒・黒 色粒 ④口縁～銅片部	外面：輪郭整形。内面：輪郭整形。 鉄釉を施し。内面に白花釉。	覆土上層	瀬戸・美濃系。胸丸型。
3	陶器 擂鉢	底径 (15.0) 器高 [8.1]	①普通 ②浅黄褐 ③白色粒 ④体部 ～底部片	外面：輪郭整形。回転削り。内面：輪郭整形。 内外面剥脱。	覆土上層	瀬戸・美濃系。
4	瓦 丸瓦	厚さ 2.0 高さ 6.5 小口長 2.7	①普通 ②灰～灰焼 ③白色粒 ④一部欠損	背面：布目直瓶。継位叩き。 凸面：緞子紋。平滑。端部面取り。 板作り・型替文成形。	覆土上層	
5	瓦 軒平瓦	厚さ 1.9 平部高さ 4.3	①普通 ②灰 ③白色粒 ④破片	瓦当面：江戸式文様。唐草二重線。雲母粉。 間面：ナデ。雲母粉。凸面：ナデ。 板作り・型替文成形。	覆土上層	17世紀後半～18世紀初頭。
6	瓦 棟瓦	厚さ 2.2	①普通 ②灰～灰白 ③白色粒・石英 ④破片	間面：横位ナデ。平滑。頭部面取り。 凸面：ナデ。頭部：銀化。刻印「  」。 板作り・型替文成形。	覆土上層	
7	瓦 棟瓦	厚さ 1.9	①普通 ②灰 ③白色粒 ④破片	間面：ナデ。平滑。頭部面取り。 凸面：ナデ。頭部：刻印「  」。 板作り・型替文成形。	覆土上層	
8	瓦 棟瓦	厚さ 1.9	①普通 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④破片	間面：ナデ。平滑。頭部面取り。 凸面：横位ナデ。頭部：刻印「  」。 板作り・型替文成形。	覆土上層	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
9	石製品 石臼	長さ [17.7] 幅 [18.7] 厚さ [10.1] 重さ 1,444	自然礫の表面に削削痕・摩耗痕が認めら れ、中央部には敲打集中による槽状の凹凹あり。 側面へ裏面の一部欠損。多孔質安山岩製。		覆土上層	
10	石製品 加工石製品	長さ 23.9 幅 [16.5] 厚さ 15.7 重さ 5,600	全体に加工が施された形状に成形される。右 半部欠損。地輪の破片か。安山岩製。		覆土上層	
11	石製品 加工石製品	長さ [17.3] 幅 [25.1] 厚さ [12.8] 重さ 3,038	全体に加工が施され断面し字状に成形され る。中央へ下半部欠損。安山岩製。		覆土上層	

VI 2区の遺構と遺物

1. 溝

W - 1号溝 (Fig.18・22, PL. 4・8)

位置: X 161 ~ 163, Y 249・250 グリッド 主軸方向: N - 80° - E。規模: 全長 [7.9] m × 上端幅 1.85 ~ 2.08 m、下端幅 1.18 ~ 1.47 m。深さ 27cm。形状等: 東西方に直線的に走向する。東西端部については調査区内で立ち上がる、あるいは調査区南壁外へ屈曲すると推測される。断面は皿状～逆台形状を呈する。底面の状態: 少数の凹凸は認められるが概ね平坦であり、部分的に鉄分沈着が認められる。標高は東端が 115.758 m、西端が 115.759 m を測り、検出された範囲内において比高差は認められない。遺構埋没状態: 粘性のある褐灰～灰黄褐色土が自然埋没している。遺物: 埋没土中から古代瓦、陶磁器（碗・皿・瓶・灯明皿・擂鉢・焰烙）が出土している。掲載資料は 2 点。時期: 出土遺物から 18 世紀以降と想定される。備考: 埋没土中に常態的な流水を示す痕跡が認められていないことや、平面形態などから区画溝の可能性が考えられる。また、W - 2号溝と軸方位が直交していることや、出土遺物などから同時期に機能していたと思われる。

W - 2号溝 (Fig.18・22, PL. 4・8)

位置: X 163・164、Y 249・250 グリッド 主軸方向: N - 10° - W。規模: 全長 [2.58] m × 上端幅 1.09 ~ 1.74 m、下端幅 0.78 ~ 1.53 m。深さ 13cm。形状等: 南北方向へ走向する。北端は調査区外へ延び、南端はカクランに削平されている。断面は皿状を呈し、東端では一段深く落ち込む範囲が認められる。底面の状態: 全体に凹凸が認められる。標高は北端が 115.95 m、南端が 115.87 m を測り、北から南へ 8 cm ほど傾斜している。重複: I - 1号井戸より新しい。遺構埋没状態: 自然埋没している。遺物: 埋没土中から土師器甕、かわらけ、陶磁器（碗・皿・瓶）が出土している。掲載資料は 3 点。時期: 出土遺物から 18 世紀以降と想定される。備考: 埋没土中に常態的な流水を示す痕跡は認められていないが、平面プランがやや蛇行していることや底面の状態から排水溝の可能性が考えられる。W - 1号溝と軸方位が直交していることや、出土遺物などから同時期に機能していたと思われる。

W - 3号溝 (Fig.19・20・22・23, PL. 4・8)

位置: X 156・157、Y 250・251 グリッド 主軸方向: N - 10° - W。規模: 全長 [4.0] m × 上端幅 4.45 m、下端幅 0.6 ~ 0.78 m。深さ 215cm。形状等: 南北方向へ直線的に走向する。断面は V 字状を呈し、西側壁面の上部は急角度に立ち上がる。底面の状態: 概ね平坦である。底面付近は湧水しており、掘削範囲内の比高差は不明である。断面観察を行った底面の標高はおよそ 114.00 m を測る。遺構埋没状態: 上層～下層では 4段階（2 ~ 4 層、13・14・18 ~ 21 層、34 層、42 層）の人为埋没層が確認されており、総社砂層や黒色粘質土などの地山ブロックを主体としている。下層では部分的に水性堆積層（シルト・細砂）が確認されているが、一時的な流水と推測される。遺物: 埋没土上層～中層から古代瓦、羽釜、かわらけ、擂鉢、内耳鍋、宝鏡印塔（相輪部）、縁泥片岩の破片が出土している。掲載資料は 6 点。時期: 周辺の調査事例などから 15 世紀代には機能していたと考えられる。廃絶時期については、埋没土中から 15 ~ 16 世紀代の遺物が出土していることから、16 世紀代には埋め戻されていると推測される。備考: 平面・断面形態、埋没状態、走行方向などを考慮すると、本溝は 2 区から 40 m ほど北側に位置している元總社普海遺跡群（21）の 9 地点 1 区 W - 3号溝と同一溝と考えられ、普海城「鎌田屋敷」の西側堀跡と想定される。

2. 井戸

I-1号井戸 (Fig.20, PL. 4)

位置：X 163・164、Y 249 グリッド 規模：長軸 [0.88] m、短径 [0.84] m、深さ [1.9] m以上。形状等：梢円形状を呈する。素掘り。重複：W - 2号溝より古い。遺構埋没状態：全体に総社砂層ブロックを混入する灰黄褐～暗褐色土が人為埋没している。中層下位は水分を多く含んでいる。遺物：出土していない。時期：詳細な時期は不明だが、最終埋没土中に As-B が混入していることや重複する W - 2との関係から、12世紀～18世紀と推測される。備考：掘削深度が深いことから、安全を配慮し深さ 1.9 m のところで掘削を中断した。

I-2号井戸 (Fig.21, PL. 4)

位置：X 158、Y 250 グリッド 規模：長軸 [0.92] m、短径 [0.87] m、深さ [1.5] m以上。形状等：不整円形状を呈する。素掘り。重複：W - 2号溝より古い。遺構埋没状態：上層（1～6層）は自然埋没しており、中層（7～15層）は人為埋没している。なお、人為埋没土は地山層と近似した状態で埋め戻されていることから、掘削行為と埋没行為が連続的に行われたことが窺える。遺物：土師器片が2点出土しているが、細片のため図示はしなかった。時期：上層埋没土が W - 1 や W - 2 と類似していることから、18世紀以降と推測される。備考：掘削深度が深いことから、安全を配慮し深さ 1.5 m のところで掘削を中断した。

I-3号井戸 (Fig.21・23, PL. 4・8)

位置：X 159、Y 250 グリッド 規模：長軸 [0.82] m、短径 [0.75] m、深さ [1.3] m以上。形状等：不整円形状を呈する。素掘り。内壁が2～14cmほどオーバーハングしている。遺構埋没状態：As-B を多量に含む黒褐～暗褐色土が自然埋没している。遺物：須恵器壺、古代瓦、陶磁器片が少量出土している。掲載資料は1点。なお、上記の遺物以外では被熱破碎した礫（砂岩）11層から少量出土している。時期：埋没土中に As-B が多く混入していることから、12世紀初頭以降と想定される。備考：狭い範囲での作業であり、安全を配慮し深さ 1.3 m のところで掘削を中断した。

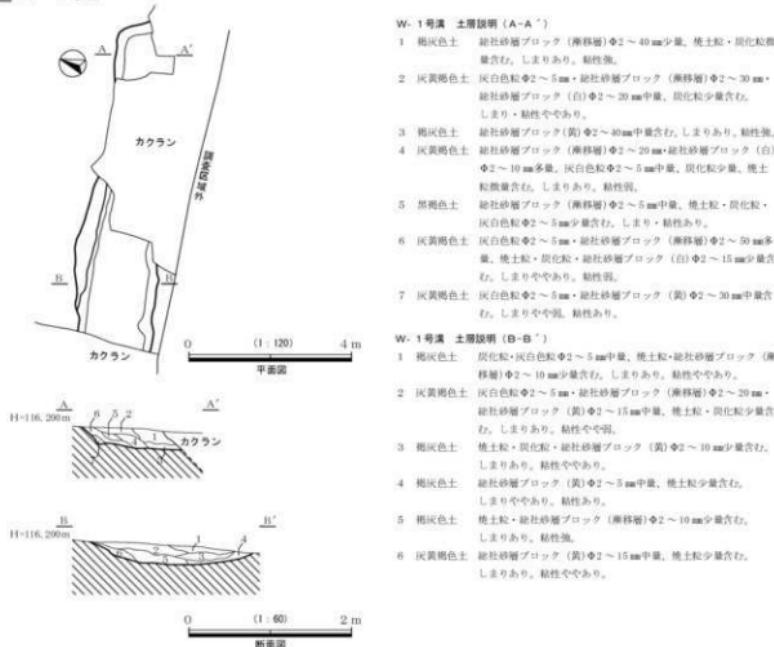
3. ピット (Fig.21)

ピットは4基が確認されており、いずれも調査区西側に位置している。ピットの埋没状態に共通性がみられることから、同時期に機能していたと推測される。いずれも As-A・As-B の混入が認められないことから、中世以前と推測される。ピット4基は東西方向に直線的な配列が認められるものの、ピット間の長さが一定ではない。各ピットの計測値については、Tab. 3の2区ピット一覧表に記載した。

Tab. 5 2区ピット一覧表 単位：cm

遺構名	位置	平面形	幅	深さ	時期・所見
P 1	X 157、Y 250	方形	31×30	8	中世以前
P 2	X 158、Y 250	不整形	30×24	6	中世以前
P 3	X 158、Y 250	不整形	42×30	8	中世以前
P 4	X 159、Y 250	不整形	38×24	9	中世以前

図 W-1号溝



W-2号溝

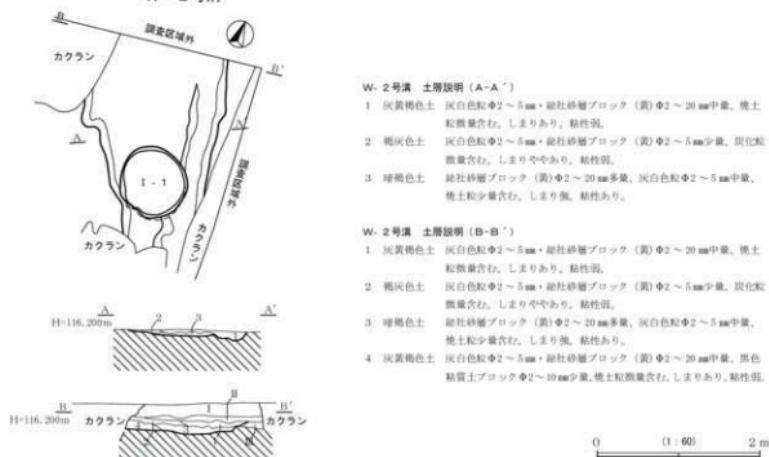


Fig.18 2区遺構実測図 (1)

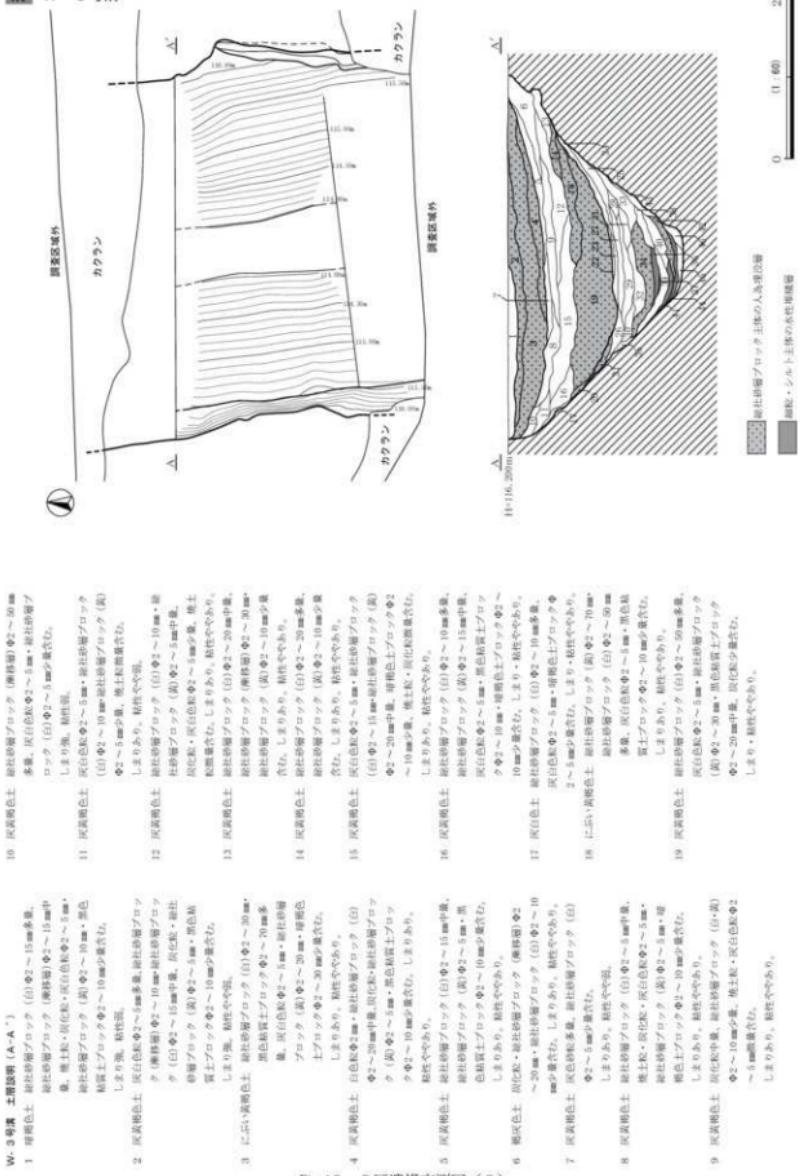


Fig.19 2区遺構実測図（2）

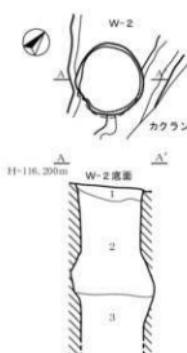
W - 3 号溝（土層説明のつづき）

W- 3号溝 土層説明 (A-A')

- 20 沈黄褐色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~20mm中量。総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm少量含む。しまり・粘性あり。
- 21 黒褐色土 沈土粒・炭化鉄・総社砂層ブロック (白)Φ2~10mm少含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 22 沈灰色土 灰色砂粒多量、灰白色砂2~5mm。総社砂層ブロック (白)Φ2~15mm。黒色粘質土ブロックΦ2~10mm少含む。しまり・粘性なし。
- 23 沈黃褐色土 沈白色砂Φ2~5mm。総社砂層ブロック (白)Φ2~5mm少量含む。しまり・粘性あり。帯状の炭化層が下層に5mm程堆積している。
- 24 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (白・黄)Φ2~5mm少量、炭化鉄少含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 25 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~10mm中量。総社砂層ブロック (黄)Φ2~10mm少量、炭化鉄微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 26 沈灰色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~40mm中量。総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm少含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 27 沈灰色土 灰白色砂Φ2~5mm。総社砂層ブロック (白・黄)Φ2~5mm。黒色粘質土ブロックΦ2~5mm少量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 28 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm中量。灰白色砂Φ2~5mm。灰色砂粒・総社砂層ブロック (白)Φ2~10mm少含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 29 沈灰色土 灰色粘質土ブロックΦ2~30mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm中量。灰白色砂Φ2~5mm。黒色粘質土ブロックΦ2~10mm。総社砂層ブロック (白)Φ2~5mm少量含む。しまりややあり。粘性あり。
- 30 沈灰色土 総社砂層ブロック (黄)Φ2~10mm。総社砂層ブロック (白)Φ2~5mm中量、暗褐色土ブロックΦ2~10mm少含む。灰白色砂Φ2~5mm微量含む。しまりややあり。
- 31 沈灰色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~30mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~10mm中量。灰白色砂Φ2~5mm少量、炭化鉄微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
- 32 沈灰色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~40mm中量。灰白色砂Φ2~5mm。灰色砂粒・総社砂層ブロック (黄)Φ2~10mm少含む。しまりややあり。粘性あり。
- 33 沈灰色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~15mm中量。灰白色砂Φ2~5mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~10mm。黒色粘質土ブロックΦ2~10mm微量含む。炭化鉄微量含む。しまり・粘性あり。
- 34 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (黄)Φ2~50mm。総社砂層ブロック (白)Φ2~30mm多量。灰白色砂Φ2~5mm・黒色粘質土ブロックΦ2~10mm少含む。しまり・粘性あり。
- 35 沈灰色土 灰白色砂Φ2~5mm。総社砂層ブロック (白)Φ2~10mm。黒色粘質土ブロックΦ2~5mm少含む。しまりややあり。
- 36 灰色細砂 墓園砂土ブロックΦ2~10mm少含む。ラメナ状。しまり・粘性なし。
- 37 にふい黄褐色土 灰色砂粒多量、埋根土ブロックΦ2~10mm少含む。しまり・粘性なし。
- 38 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (白)Φ2~5mm中量。灰白色砂Φ2~5mm。灰色砂粒・暗褐色土ブロックΦ2~10mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm少含む。しまりややあり。粘性あり。
- 39 沈灰色土 灰白色砂Φ2~5mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~20mm中量。総社砂層ブロック (白)Φ2~5mm少量、炭化鉄微量含む。しまりややあり。粘性強。
- 40 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (黄)Φ2~100mm中量。炭化鉄・総社砂層ブロック (白)Φ2~10mm少含む。黒色粘質土ブロックΦ2~10mm微量含む。しまりややあり。粘性あり。
- 41 沈灰色土 从白色的砂Φ2~5mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm少含む。しまりややあり。粘性強。
- 42 灰白色土 灰色砂粒・総社砂層ブロック (黄)Φ2~30mm中量。総社砂層ブロック (白)Φ2~20mm少含む。しまり弱。粘性ややあり。
- 43 沈黃褐色土 総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm中量。総社砂層ブロック (白)Φ2~30mm。黑色粘質土ブロックΦ2~5mm少含む。しまりやや弱。粘性あり。
- 44 沈灰色土 総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm少含む。しまりややあり。粘性強。
- 45 沈灰色土 Ar-YFΦ2~5mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~10mm少含む。炭化鉄微量含む。しまりやや弱。粘性強。
- 46 沈灰色土 灰色砂粒多量、Ar-YFΦ2~5mm。総社砂層ブロック (黄)Φ2~5mm少含む。しまり弱。粘性ややあり。

井戸

1 - 1号井戸



1 - 1号井戸 土層説明 (A-A')

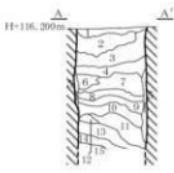
- 1 沈黄褐色土 Ar-YFΦ2~5mm。総社砂層ブロック (白・黄)Φ2~40mm中量。灰土粒・炭化鉄少含む。しまりややあり。粘性弱。
- 2 にふい黄褐色土 総社砂層ブロック (白・黄)Φ2~90mm中量。炭化鉄・黒色粘質土ブロックΦ2~20mm少含む。しまり・粘性なし。
- 3 墓園土 総社砂層ブロック (白)Φ2~90mm中量。炭化鉄・黒色粘質土ブロックΦ2~20mm少含む。しまりややあり。粘性あり。

0 (1-60) 2 m

Fig.20 2区遺構実測図 (3)

井戸

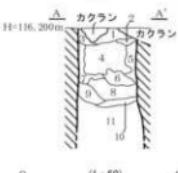
I - 2号井戸



I - 2号井戸 土層説明 (A-A')

- 1 黄褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 15$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm、黒色粘土ブロック $\Phi 2 \sim 10$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 2 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、黒色粘土・灰化粘土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 3 黑褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 4 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、黒色粘土ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 5 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 中量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 6 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、黒色粘土・灰化粘土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 7 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 8 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 9 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 10 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 11 黄褐色土 灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 12 黄褐色土 黑色粘土質ブロック $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、As-Sj $\Phi 2 \sim 8$ mm 少量含む。しまりやや。粘性やや弱。
- 13 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 15$ mm 中量、As-Sj $\Phi 2 \sim 8$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 14 黄褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 15$ mm 少量含む。しまりや。粘性やや弱。
- 15 にがい黄褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 50$ mm 中量含む。しまりあり。粘性やや弱。

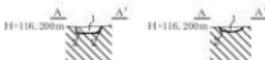
I - 3号井戸



I - 3号井戸 土層説明 (A-A')

- 1 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄、白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 2 黒褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄、白) $\Phi 2 \sim 5$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 3 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまりあり。粘性弱。
- 4 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、黒土粒・灰化粘土少量含む、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 5 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 20$ mm 多量、黑色土ブロック $\Phi 2 \sim 20$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまり強。粘性弱。
- 6 喀斯特土 As- $\Phi 2$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 15$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまり強。粘性弱。
- 7 喀斯特土 As- $\Phi 2$ mm 多量、黑色土ブロック $\Phi 2 \sim 30$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまり強。粘性弱。
- 8 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、黒土粒・灰化粘土少量含む、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 多量、細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 少量含む。しまり強。粘性弱。
- 9 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、黒土粒・灰化粘土 $\Phi 2 \sim 30$ mm 中量、黒土粒・灰化粘土少量含む。しまり強。粘性弱。
- 10 黑褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 少量含む。灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 11 黑褐色土 As- $\Phi 2$ mm 多量、黒土粒・灰化粘土・細粒砂層ブロック (黄、白) $\Phi 2 \sim 30$ mm 中量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりあり。粘性弱。

ピット



P - 1 土層説明 (A-A')

- 1 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 15$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 黑色粘土質ブロック $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量含む。しまり強。粘性ややあり。
- 2 喀斯特土 黑色粘土質ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 少量含む。しまりや。粘性弱。

P - 2 土層説明 (A-A')

- 1 黄褐色土 細粒砂層ブロック (黄) $\Phi 2 \sim 10$ mm 少量、黒土粒微量含む。しまりあり。粘性やや。

- 2 喀斯特土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 5$ mm 中量含む。しまり・粘性ややあり。

P - 3 土層説明 (A-A')

- 1 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 黑色粘土質ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量含む。しまりあり。粘性やや。
- 2 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 8$ mm 中量。黒土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。

P - 4 土層説明 (A-A')

- 1 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 多量、灰白色粘土 $\Phi 2 \sim 5$ mm 黑色粘土質ブロック (白) $\Phi 2 \sim 10$ mm 中量含む。しまりあり。粘性やや。

- 2 黑褐色土 細粒砂層ブロック (白) $\Phi 2 \sim 8$ mm 中量。黒土粒微量含む。しまり・粘性ややあり。

Fig.21 2区構造実測図 (4)

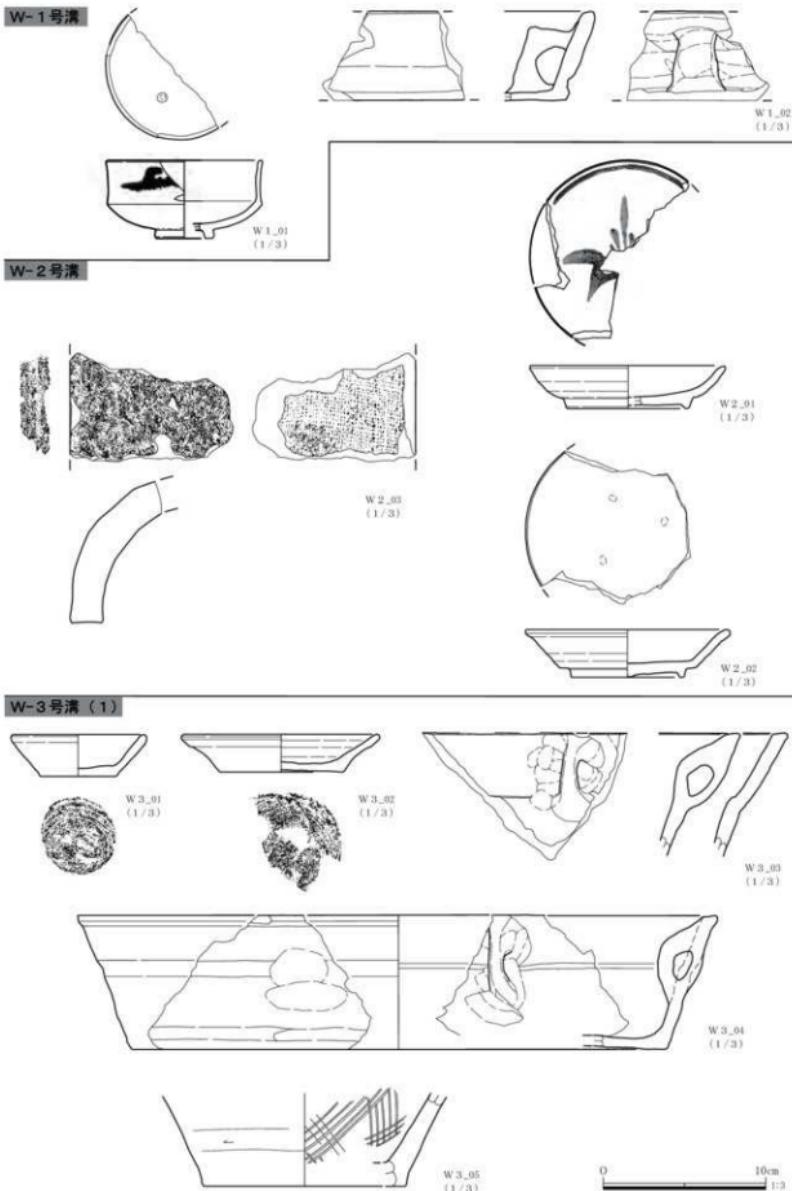
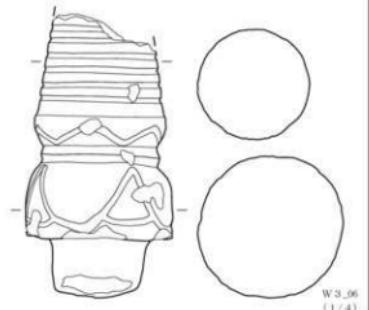


Fig.22 2区遺物実測図 (1)

W-3号溝（2）



I-3号井戸

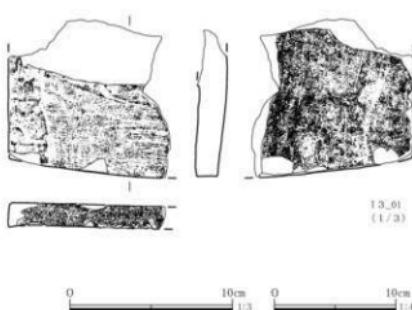


Fig.23 2区遺物実測図（2）

Tab. 6 2区出土遺物観察表

W-1号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 瓶	口径 (9.6) 底径 (3.7) 器高 4.8	①普通 ②灰白 ③黑色粒 ④1/3	外面：輪轂形。内面：見込み目跡。 灰釉を施し、高台～高台内唐草。貫入る。	覆土	京・信楽系。
2	在地系土器 焰壺	器高 5.5	①普通 ②灰褐 ③白色粒・長石 ④ 口縁～底部片	外面：ナギ。型作り痕。 内面：ナギ。耳一カ所残存。	覆土	

W-2号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器 皿	口径 (12.0) 底径 (7.4) 器高 2.6	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒 ④ 1/2	外面：輪轂形。内面～高台自泥軸。铁軸で 口縁部内に二重圓線。 内面：輪轂形。見込み二重圓線内唐草文。 貫入る。	覆土	京・信楽系。
2	陶器 皿	口径 (12.6) 底径 6.8 器高 2.9	①普通 ②にぶい黄橙 ③白色粒 ④ 1/2	外面：輪轂形。底部回転削削り。輪轂に種。 内面：輪轂形。見込みにトチノ底。 灰釉。	覆土	瀬戸・美濃系。
3	瓦 丸瓦	厚さ 2.3	①酸化焰気味 ②にぶい橙 ③白色 粒・チャート ④破片	正面：布目庄張。ナギ。 凸面：鐵ナギ。 側面：鐵ナギ。	覆土	

W-3号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師質土器 皿	口径 (8.4) 底径 4.8 器高 2.6	①普通 ②橙 ③白色粒・褐色粒 ④ 1/2	外面：輪轂形。底部回転左系切り。 内面：輪轂形。	覆土中層	
2	土師質土器 皿	口径 (12.2) 底径 (7.4) 器高 2.3	①普通 ②橙～明赤褐 ③黒色粒・白 色粒・透明粒 ④1/3	外面：輪轂形。底部左回転系切り。 内面：輪轂形。	覆土中層	
3	在地系土器 内耳鉢	器高 [7.5]	①普通 ②灰黄褐 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部片	外面：輪轂形。 内面：輪轂形。耳一カ所残存。	覆土中層	
4	在地系土器 内耳鉢	口径 (39.5) 底径 (32.8) 器高 8.3	①普通 ②灰黄褐 ③黒色粒・白色粒 ④破片	外面：輪轂形。型作り痕。 内面：輪轂形。耳一カ所残存。	覆土中層	
5	陶器 擂鉢	底径 (12.6) 器高 [5.7]	①普通 ②褐灰～にぶい黄橙 ③黒色 粒・白色粒 ④破片	外面：輪轂形。体部下位回転削削り。 内面：輪轂形。	覆土中層	
番号	器種	法量(cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考	
6	石製品 宝鏡印塔	長さ [23.3] 幅 12.1 厚さ 11.6 重さ 2,884	相輪部。宝珠部は欠損。安山岩製。	覆土中層		

I-3号井戸

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ L.8	①酸化焰氣味 ②にぶい橙 ③白色 粒・チャート ④抉端部左側	正面：布目庄張。 凸面：鐵ナギ。抉端部箇箇ナギ。 側面：鐵ナギ。	覆土	

VII まとめ

元総社蒼海遺跡群（129）では、奈良・平安時代、中世、近世にわたる遺構や遺物を確認することができた。本章では検出された遺構を時期別に概観し、まとめとしたい。

近世以降

1区からは竪穴状遺構（T - 1）、溝（W - 3・4）、土坑（D - 1～3）、井戸（I - 1）、ピット（P - 1～23）、不明遺構（S X - 1・2）、2区からは溝（W - 1・2）、井戸（I - 2）が検出されており、ピットを除く各遺構からは18世紀代を主体とする陶磁器類が多く確認されている。ただし、1区S X - 1号不明遺構、2区W - 1・2号溝からは17世紀代の陶磁器類、1区S X - 2からは19世紀代の陶磁器類が少量出土している。

各遺構の性格については、調査範囲内では全容を捉えられていない遺構が多く不明瞭である。しかし、1区ではS X - 2において多量の瓦や石塔物とみられる破片が一括廃棄されている状況や、ピットの一部に規格性が認められることから近世屋敷の存在を想起させる。

1区・2区における各遺構の軸方位を概観すると、該期よりも古い中世遺構の軸方位と概ね合致していることから、中世からの地割りを継続的に利用していた状況が窺える。

中世

1区からは溝（W - 1・2）、ピット（P - 24）、2区からは溝（W - 3）、井戸（I - 1・3）が検出されている。1区で検出されているW - 1号溝の走行方向は東西、W - 2号溝は南北にそれぞれ走行している。両溝の規模・埋没状態・軸方位が直交方向である点などを考慮すると同時期に機能していた可能性が高いと思われるが、重複するS X - 1によって明確ではない。埋没土中からは流水の痕跡が認められておらず、常態的な流水はなかったと思われるが、W - 1号溝の底面標高が西側へ緩傾斜していることを考慮すると、何らかの流水機能をもつ可能性が考えられる。遺物についてはW - 1号溝からは陶磁器類、かわらけ、石製品、鉄製品などが出土しているが、いずれの遺物も埋没土上層からであり溝が機能を失った後に廃棄されたものと推測される。

本遺跡1区は蒼海城関連の「豊後屋敷」の郭内に位置しているが、W - 1・2号溝が豊後屋敷に関連する明確な痕跡を捉えることはできなかった。

2区からはW - 3号溝、I - 1・3号井戸が検出されている。井戸2基については、底面まで掘削していないこともあり遺構の時期を判断可能な遺物が出土しておらず、詳細な帰属時期はわかっていないが、埋没土中にAs-Bが混入していることから古くても12世紀初頭以降と判断される。

W - 3号溝は2区西端から検出されている。溝の規模は、上幅4.45m、下端幅0.6～0.78m、確認面からの深さは2.15mを測り、軸方位は南北軸からおよそ10°西へ傾いている。埋没土については、人為的に埋め戻されているものと自然埋没しているものとに大別されるが、自然埋没している下層の一部では水性堆積層（細砂・シルト）が認められており、溝の最下層には湧水により10cmほど滯水していた。水性堆積層の要因については明確ではないが、湧水あるいは雨などが影響したものと推測される。また、中層および上層では、総社砂層プロックを主体とする人為埋没層が数単位確認されているが、上述のような水性堆積層が認められていないことから、短期間で規模が縮小されたものと考えられる。⁽¹⁾ なお、第1層中からは内耳鍋1点が出土していることから、該期のうちに全て埋没したものと想定される。

ところで、W - 3号溝は前橋市教育委員会が調査開始前に実施した試掘調査によりプランの一部が把握されていたものであり、規模や位置関係から2009年に報告されている元総社蒼海遺跡群（21）9地点1区W - 3号溝が南側へ延伸したものと判断される。さらに、総社資料館に所蔵されている「蒼海城絵図」、山崎一氏によつて作成された蒼海城縄張図に両溝跡の位置関係を合せると、「鎌田屋敷」の西側を南北に区画する堀跡や土塁と概ね合致していることが確認された。（Fig. 24）なお、W - 3号溝は調査区内では屈曲していないことから、さらに南方へ延伸することが予想される。

奈良・平安時代

2区から検出されているピット4基が該期の遺構と考えられるが、遺物が出土しておらず明確な時期については不明である。該期の遺物として土師器、須恵器、瓦（丸瓦・平瓦）が少量検出されているが、いずれも中世や近世の遺構に混入していたものである。

本遺跡地周辺は、律令期の推定国府域の範囲内ということもあり、国府関連遺構の存在が想起されていたが明確な遺構は検出されなかった。

これまで、本遺跡から検出された主要な遺構を時期別に概観してきた。本文中の記述と重複してしまった箇所が多かったことは否めないが、2区で検出されたW-3号溝が過年度調査地点から延伸する菅海城「鎌田屋敷」古段階の堀跡と確認できたことは一定の成果といえよう。

最後になるが、発掘調査においては近隣の方々に快く御協力して頂いた。感謝の意を表し、結びとしたい。



Fig.24 本調査地と周辺菅海城縄張想定図（日沖 2010、山本 2018 を加筆修正）

註

(1) 元總社菅海道跡群(21) 9地点1区のW-3号溝は西側を並走する「鎌田屋敷」新段階のW-1号溝の掘削上を埋め戻していることが指摘されている。

【引用・参考文献】

- 山崎一 1987『群馬県古城址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
- 群馬県教育委員会 1988『群馬県の中世城館』
- 日沖剛史 2009『元總社菅海道跡群(21)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 山田誠司 2010『元總社菅海道跡群(29)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
- 佐野良彦 2010『元總社菅海道跡群(31)』前橋市教育委員会
- 萩野博巳 2011『元總社菅海道跡群(36)』前橋市教育委員会
- 山田誠司 2013『元總社菅海道跡群(44・45)』前橋市教育委員会
- 相澤正信 2013『元總社菅海道跡群(47)』前橋市教育委員会
- 大塚昌彦 2016『高崎城跡23』高崎市教育委員会
- 山本千春 2018『元總社菅海道跡群(126)』前橋市教育委員会

写 真 図 版



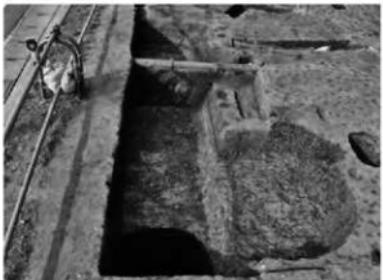
1区作業風景



1区全景（上が北）



1区全景（西から）



1区T - 1号竪穴状遺構・D - 3号土坑全景（東から）



1区W - 1号溝遺物出土状態（西から）



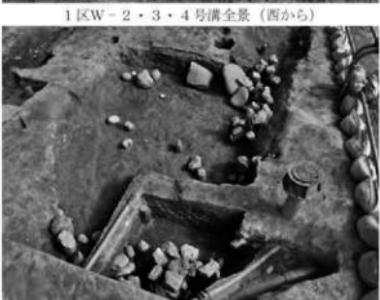
1区W - 1号溝全景（東から）



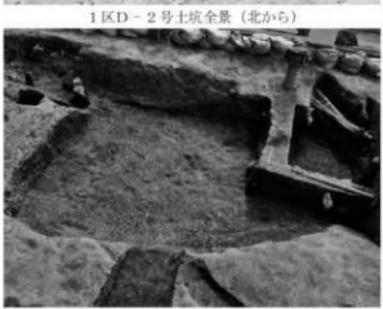
1区W - 2・3・4号溝全景（西から）



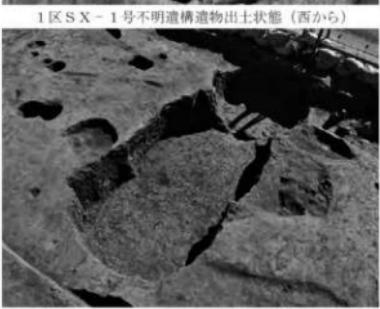
1区D - 2号土坑全景（北から）



1区S X - 1号不明遺構遺物出土状態（西から）



1区S X - 1号不明遺構全景（北から）



1区S X - 2号不明遺構全景（北西から）



2区東半全景（上が南）



2区西半全景（上が南）



2区W-1号溝遺物出土状態（北西から）



2区W-1号溝全景（西から）



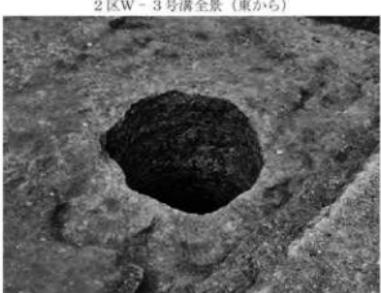
2区W-2号溝全景（南から）



2区W-3号溝全景（東から）



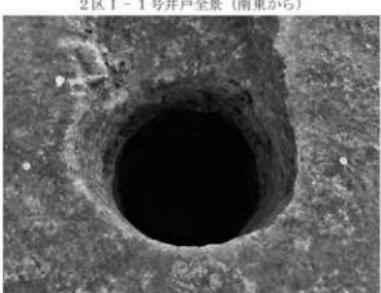
2区W-3号溝全景（南東から）



2区I-1号井戸全景（南東から）



2区I-2号井戸土層断面上～中層（北から）



2区I-3号井戸全景（北から）

1区 T-1号竖穴状造構



W-1号溝



W 1 溝 - 1



W 1 溝 - 2



W 1 溝 - 3



W 1 溝 - 5



W 1 溝 - 6

D-2号土坑



D 2 土 - 1

D-3号土坑



D 3 土 - 2



D 3 土 - 1



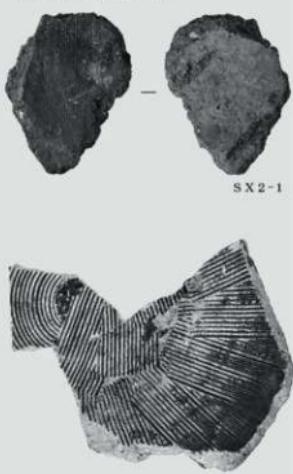
D 3 土 - 3

1区出土遺物 (1)

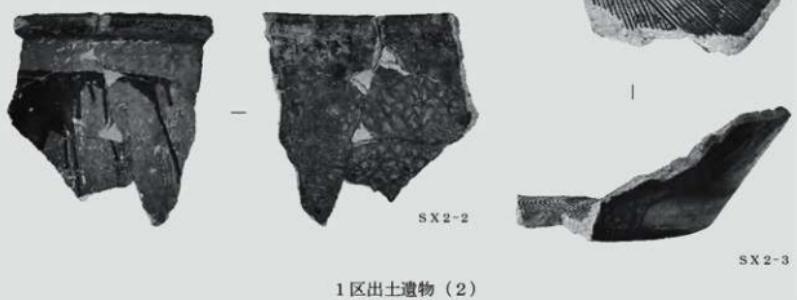
1区 SX-1号不明遗模



S X - 2 号不明遗模 (1)



1区出土遗物 (2)



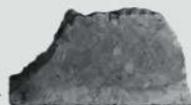
1区 SX-2号不明遗構 (2)



SX 2-5



SX 2-7



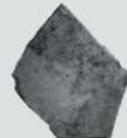
SX 2-6



刻印部拡大



刻印部拡大



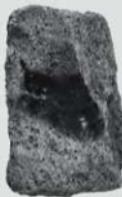
SX 2-8



刻印部拡大



SX 2-9



SX 2-10



SX 2-11

1区出土遺物 (3)

P L. 8

2区 W-1号溝



W1溝-1



-



W1溝-2

W-2号溝



W2溝-2



W2溝-1



-



W2溝-3

W-3号溝



W3溝-1



W3溝-2



-



W3溝-5



-



W3溝-3



-



W3溝-4



W3溝-6

I-3号井戸



-



I3井戸-1

2区出土遺物（1）

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキゲン 129
書名	元総社蒼海遺跡群（129）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	並木史一・土井道昭
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市総社町3-11-4 Tel 027-280-6511
発行年月日	西暦 2019年3月5日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (日本測度系)	東経 (日本測度系)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
元総社蒼海 遺跡群（129）	群馬県前橋市元総 社町 2154番地3 ほか	10201	30 A 237	36° 23' 18"	139° 02' 03"	20181002 ~ 20181105	259.0	前橋都市計画事 業元総社蒼海上 地区画整理事業

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡 群（129）	集落跡	中世	竪穴状遺構	1基	陶器
	城館跡	近世	溝（堀含む）	7条	かわらけ
	その他		井戸 土坑 ピット 不明遺構	4基 3基 28基 2基	瓦 石製品 金属製品

元総社蒼海遺跡群（129）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成31年3月1日印刷

平成31年3月5日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市教育委員会

前橋市総社町3-11-4

Tel 027-280-6511

印刷／朝日印刷工業株式会社